

令和5年度

鉄北地区学校運営協議会

緑中学校ミーティング資料

自己評価書



岩見沢市立緑中学校

対象校	岩見沢市立緑中学校				
学校長	鳶野郁夫		教職員数	29名	
	1年	2年	3年	特別支援	合計
学級数	3	3	3	3	12
生徒数	83	103	87	9	282
住所	岩見沢市北本町西2丁目2番1号				
電話	0126-22-0669				
FAX	0126-25-7143				
URL	https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/soshiki/midorichugakko/4068.html				
E-mail	midoric@edu.hamanasu.com				

目次

学校経営方針 P 1～P 3

生徒・保護者・教職員アンケート P 4～P27

・今年度の結果について P 4

・アンケート結果の具体目標 P 5

1. 学校について P 6～P10

2. 先生について P11～P15

3. 生徒自身について P16～P18

4. 家庭について P19～P23

5. 小学校・中学校共通項目 P24～P27

【令和5年度 学校経営方針】

I 経営の方針

キーワード

チームを創る～共有・協働・貢献～

【共有】

学校がチームとして成果をあげるために、確固たる目標が必要です。それが学校教育目標であり「めざす生徒像」です。まず、目の前の子どもたちを「どのように育てたいのか」「どのような姿がゴールなのか」を明確にすることが必要です。そして、その姿を教職員全体が「共有」することが重要だと考えます。

【協 働】

なすべきことを組織的に着実に実践することが不可欠です。私たち教職員は、何かの縁により緑中学校で巡り会いました。年齢、教職経験年数、信条などに違いはあっても、多少仲が悪くとも、「子どもたちのために」という共通の目標があるからこそ利害関係を捨てチームで動くことができます。「チーム分掌」、「チーム学年」、「チーム特別委員会」等、教職員個々の強みを結集し、弱みをチーム内で補うことが大切だと考えます。

【貢 献】

貢献を考えることによって個人も組織も成長します。教職員個々の専門性・強みを活かし、チームの目標達成のために貢献することが大切だと考えます。

「成果をあげるには、自らの果たすべき貢献を考えなければならない。手元の仕事から顔を上げ目標に目を向ける。組織の成果に影響を与える貢献は何かを問う。そして責任を中心に据える。」（ドラッガーの著書より）

この「共有」「協働」「貢献」により、教職員の同僚性を高め教職員のチームを創ること。また、学級・学年活動を基盤に生徒会活動の活性化を図り、生徒による生徒のチームを創ること。さらには、小学校との接続を強化するとともに、中学校区学校運営協議会（コミュニティ・エリア）の取組により、鉄北地区というチームを創ることを目的とします。

II 令和5年度の重点事項 《組織的な学校運営は、授業の組織化・指導の組織化から》

1 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進

- ・「自己決定、存在感、人間的ふれあい」を基盤とした、
①自尊感情や自己有用感を育む生徒理解に立った心に寄り添う日常指導の充実
②自らを律し、困難にもめげない心を培う教育活動の推進

2 支持的・親和的な人間関係を育むピア・サポートプログラムの推進

- ・信頼関係に基づく仲間づくり、「傾聴・受容・共感」の学校文化を醸成する授業と日常生活活動の推進

3 新しい時代に対応できる力を培う協働学習の推進

- ・校内研修の充実と統一感のある授業づくりの推進による授業の組織化

III 経営の重点

1 「新しい時代に対応できる力」の育成

- (1) 基礎・基本（知識・技能）の習得、活用する力（思考・判断・表現）、学びに向かう力を高める教科指導の推進
- ① 「主体的・対話的で深い学び」にせまる協働学習の構築と「指導と評価の一体化」による授業づくりの推進
 - ② 「学習規律」の徹底と「学習スキル」の向上による「学びに向かう力」の育成
 - ③ 一人一台端末を活用した日常授業と有事に即応できるオンライン授業の構築
 - ④ 各教科等による情報活用能力の育成（情報モラルを含む）
 - ⑤ 放課後や長期休業を利用した学習サポートや S S R の実施

- (2) 生徒一人一人の能力や可能性を伸ばす特別支援教育の充実
- ① 生徒の教育的ニーズに応じた支援の工夫、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的指導体制の充実
 - ② 生徒一人一人の実態把握に努め、個別の教育支援計画・指導計画に基づく指導の工夫
 - ③ 保護者との連携と信頼関係の構築、関係諸機関との連携
- (3) 意欲的な研修をとおした組織的な指導体制の確立
- ① 組織化された授業づくりを推進する校内研修体制の確立
 - ② 教員相互が授業力を磨き合い高め合う日常授業交流の活性化
 - ③ 各種研修会への参加と研修成果の共有、外部講師の積極的な活用
- (4) 鉄北三校間における積極的な連携・接続
- ① 鉄北地区三校交流と連動した授業づくりの共有化と教育課程の検証
 - ② 目指す子ども像を共有するための授業参観・情報交流の日常化（小学校における教育成果の継承）

2 「豊かな人間性」「健やかな体」の育成

- (1) 生徒理解に努め、ふれあいを大切にした心の通う生徒指導の推進
- ① 生徒指導の原理が機能し自尊感情や自己有用感を育む日常指導の充実
 - ② 支持的・親和的な人間関係を育むピア・サポートプログラムの推進
 - ③ H-QU、アセス、その他の客観的資料の効果的活用
 - ④ 生徒に関する情報の即時共有と全教職員による一致した指導体制の確立
 - ⑤ 不登校生徒・いじめを出さない積極的な取組の推進（教育支援センター等関係諸機関及びS Cとの連携、学年の枠を越えた組織的な指導体制の確立）
- (2) 強い意志で正しく行動する心を培い、実践的態度を育てる道徳教育の推進
- ① 「考え、議論する」道徳の授業づくりへの実践
 - ② 全教育活動を通した道徳的実践力の向上
- (3) 自主的・実践的な態度を育てる特別活動の推進
- ① 目指す生徒像を共有した学年・学級活動及び生徒会活動の充実、自己を高める意識の高揚と自治的能力の向上
 - ② 生徒のどのような力を育成するかを明確化し、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を高める学校行事の推進
 - ③ 人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアアプランニング能力の育成を目指すキャリア教育の充実
- (4) 生命を尊び、自らを律する健康・安全教育の推進
- ① 強健な心身を培うスポーツへの参加奨励と充実
 - ② 健康な生活に資する学校保健・安全指導の充実と自分の身を守る行動の指導・習慣化
 - ③ 危機管理、危機回避の共通理解と全教職員による組織的対応
 - ④ 地域・PTA等との連携・協力による不審者への対応や地域安全活動の活性化
 - ⑤ 食育、性の指導、薬物乱用防止等の指導の充実（外部指導者の活用等）

- (5) 豊かであたたかみと落ち着きのある教育環境づくりの推進
- ① 備品等の計画的整備・廃棄等と掲示スペース等を有効活用した環境整備
 - ② 地域・保護者等と連携した、学校に潤いをもたらす活動の推進（花壇・生け花・茶の湯等）
 - ③ 効果ある予算執行と計画的な教育環境整備

3 「信頼される」学校づくり

- (1) 創造的な教育活動の推進及び「社会に開かれた教育課程」の実現
- ① 児童・生徒の顔が見える第一小学校・北真小学校との日常的な連携
 - ② 地域の自然や人材、施設・設備を生かし、教科等を横断した課題解決的な学習や探究活動へと発展させる総合的な学習の時間の充実
- (2) 家庭・地域との緊密な連携を図り、その願いや思いを真摯に受け止め、地域の誇りとされる信頼される学校づくりの推進
- ① 鉄北地区学校運営協議会（岩見沢市コミュニティ・エリア構想）に基づく地域と

ともにある学校づくりの推進

- ・地域での行事や事業へ積極的な参加を促し地域社会の中で学ぶ機会の確保
- ・生徒会活動等をとおした地域貢献活動の推進
- ・学校の説明責任を果たし、学校力の向上を図る学校評価の改善・充実
- ・緑中の良さを発信する機会の積極的な設定

(3) 学校における「働き方改革」の推進

- ① 岩見沢市教育委員会の「行動計画」による取組の推進
- ② 「共有・協働・貢献」による組織的学校運営の推進と教職員間のコミュニケーションを基本とした「何でも相談できる、チームプレーを大切にする」職員室文化の醸成

令和5年度 三者アンケート比較分析

回答総数

生徒 260 名（回答率 92%）、保護者 215 名（回答率 77%）、職員 25 名

○今年度のアンケート結果について

昨年度と比較して、昨年度並みに、各項目において良好な結果が示されている。課題として改善すべき事項はまだまだあるものの、1年ごとに着実に結果が向上していることからも、本校教職員のチームとしての取組が、着実に成果を上げていることを実感できる結果となっている。

生徒は、日々の生活に充実感を得ながら、意欲的に授業に参加している様子がうかがえる。しかしながら、多くの場面で教職員からの声かけ待ちの状況が多く、生徒自身の「自立した行動」に至らない状況も見られ、「主体的に」「自立した」というキーワードが今後の重点となることを地域・保護者・教員において共有していきたい。

安心感においては、生徒アンケートの青色の「よく当てはまる」の部分が昨年に比較して向上している。ここは、本年度の成果である。しかし、保護者アンケートの同部分については、概ね昨年並みとなっており、生徒の実感している部分をいかに家庭に伝え、保護者も実感できる学校づくりを進めることや、情報の発信については、令和6年度に向けて再度見直しをかけていきたい。

アンケート結果から、本校の大きな課題として浮かび上がっている部分として、家庭学習の取組が挙げられる。この部分は、生徒・保護者・職員とも課題と感じているところであり、「組織的な授業改善」とともに、「家庭との連携による、日々の学習の学び直し（家庭学習）」には、より力を注いでいく必要性を感じる結果となっている。

このアンケート結果を職員全体で共有し、令和6年度に向けて効果的な計画を立案し、次年度に向けて地域・生徒・保護者から、さらに「安心感をあたえられる」、「信頼を得られる」学校づくりを進めていきたい。

アンケートの見方



↑棒グラフは令和5年度（今年度）の
生徒・保護者・教員のアンケートの比較です
(今年から、比較しやすいよう棒グラフに変更)

【比較資料：R4 年度の結果】

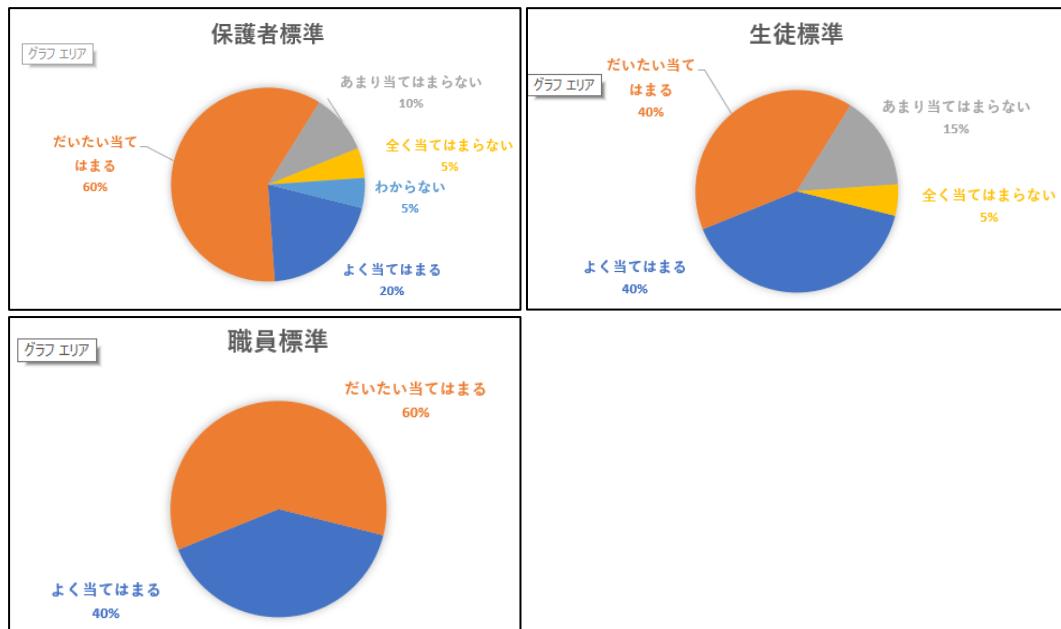


↑各項目に比較のため、令和4年度（昨年度）の
生徒・保護者のアンケート結果がついています
(昨年度のものは円グラフです)

○アンケート結果の具体目標

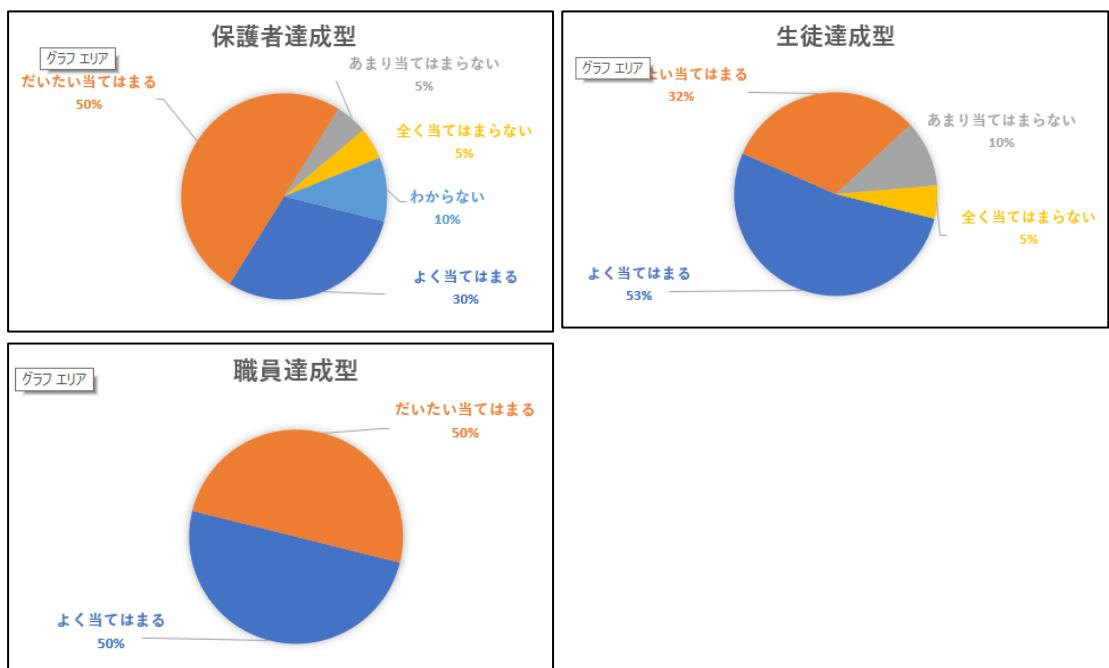
1. 標準としたい形

- ・保護者 よく当てはまる+だいたい当てはまる：80%、うちよく当てはまる：20%
(※わからない、全く当てはまらないの減少)
- ・生徒 よく当てはまる+だいたい当てはまる：80%、うちよく当てはまる：40%
(※あまり当てはまらない、全く当てはまらないの減少)
- ・教職員 よく当てはまる：40%



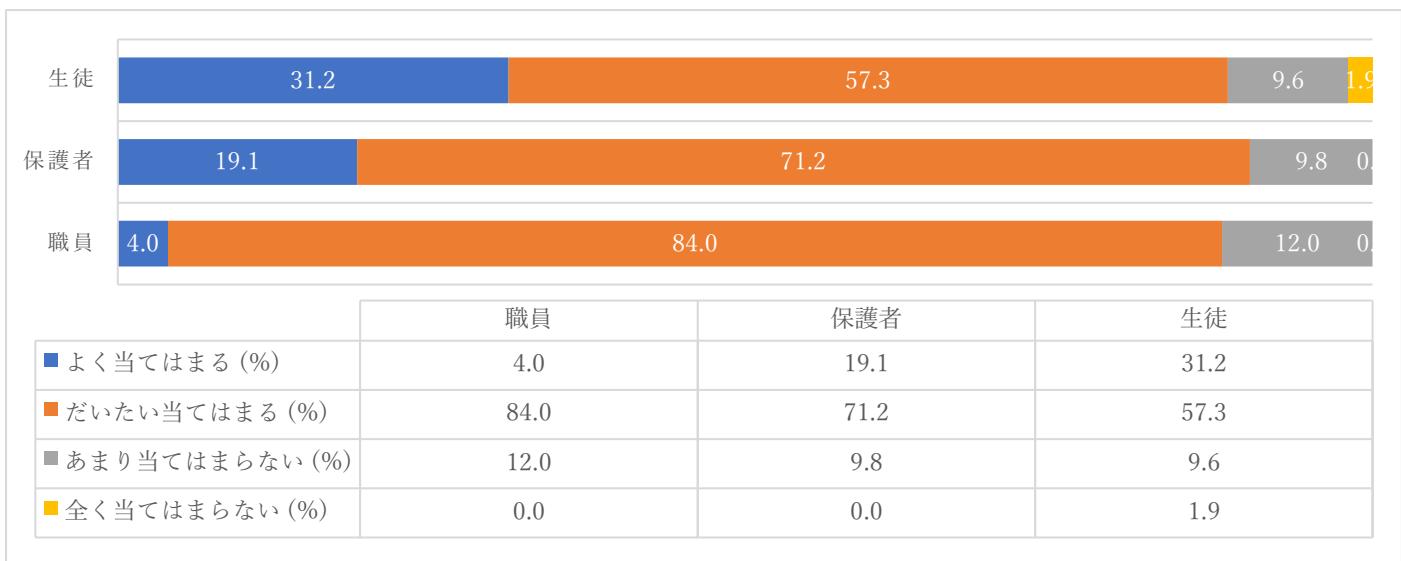
2. 達成したい形

- ・保護者 よく当てはまる+だいたい当てはまる：80%、うちよく当てはまる：30%
(※わからない、全く当てはまらないの減少)
- ・生徒 よく当てはまる+だいたい当てはまる：80%、うちよく当てはまる：50%
(※あまり当てはまらない、全く当てはまらないの減少)
- ・教職員 よく当てはまる：50%以上



I. 学校について

1. 質問項目：生徒は、学校の教育活動全般について満足しているか。



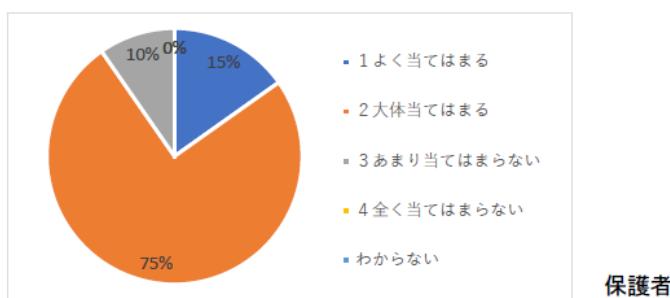
分析:

- 生徒: 生徒の 88.5%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、教育活動に対して比較的高い満足度を示している。
- 保護者: 90.3%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒同様、高い満足度を示している。
- 職員: 職員の 88.0%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、教育活動に対して高い満足度を示している。

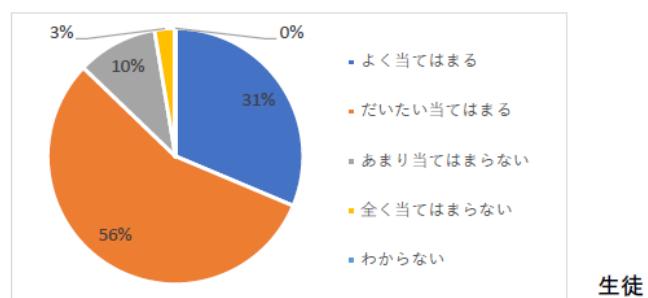
総括:

教育活動全般に関して、生徒、保護者、職員のいずれも高い満足度を示し、学校全体の教育活動に対して良い評価を得ることができている。引き続きより良い学校生活を送ることができるよう魅力ある教育活動を展開していくことが求められる。

【比較資料：R4 年度の結果】

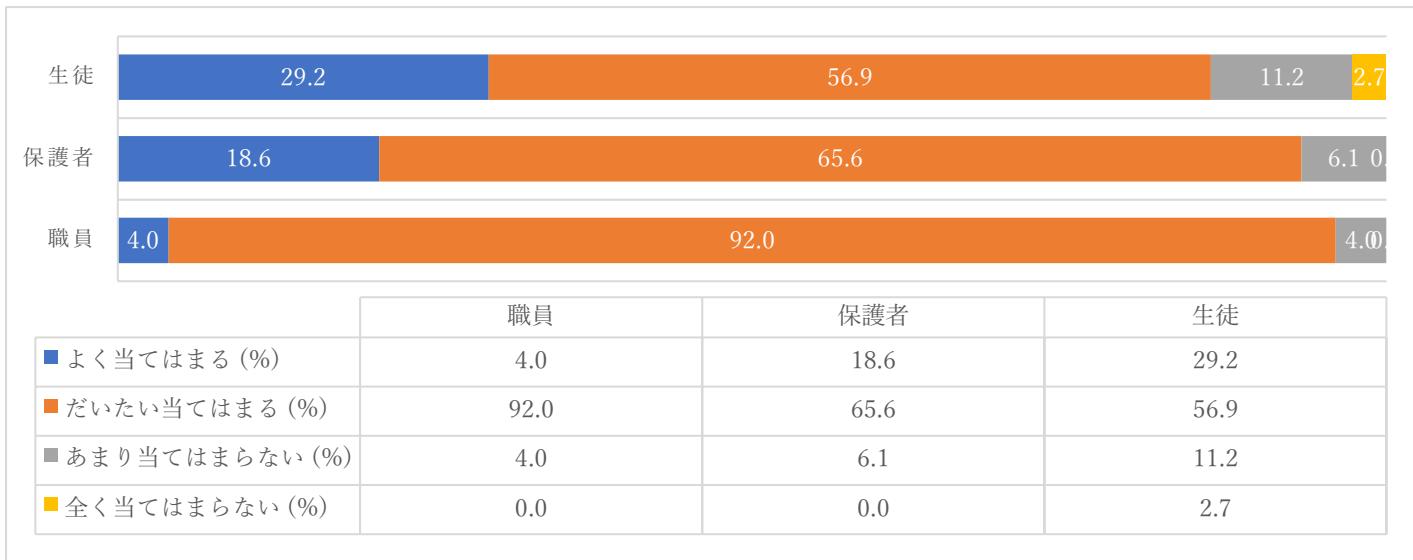


保護者



生徒

2. 質問項目：学校は、きれいで落ち着きのある学習環境を整えているか。



分析:

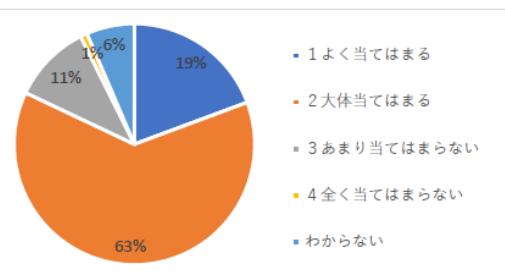
- 学習環境整備に対する評価は異なる傾向が見られる。
- 生徒: 生徒の 86.1% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、学習環境に対する比較的高い評価を示している。
- 保護者: 84.2% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒とほぼ同様に高い評価を示している。
- 職員: 職員の 96.0% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、非常に高い評価を示している。ただし、生徒や保護者に比べて「よく当てはまる」の割合が低いため、具体的な課題や改善点を探る必要がある。

総括:

学校の学習環境について、生徒・保護者・職員のいずれも高い満足度を示し、学校の学習環境整備に対して良い評価を得ることができている。引き続き、生徒や保護者の声に耳を傾け、より良い学習環境を整えていくために具体的な対策や改善を進めていくことが求められる。教室内の掲示物等については、UD（ユニバーサルデザイン）を踏まえて配置等も含めて統一していくことが望ましいと考える。

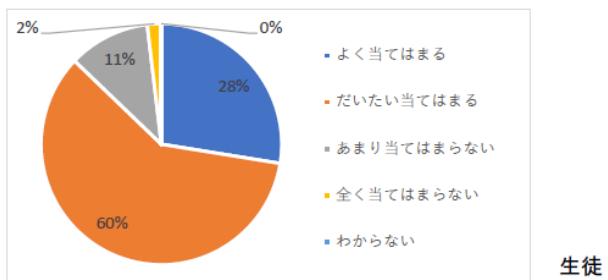
【比較資料：R4 年度の結果】

継続



保護者

2. 学校は、きれいで落ち着きのある学習環境を整えていますか？



生徒

3. 質問項目：学校は、生徒の成長を感じることができ、安心して生活できるよう指導をしているか。



分析:

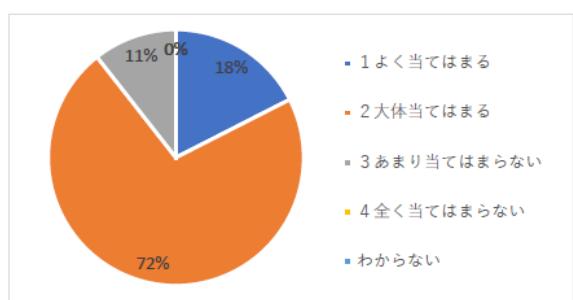
- ・生徒: 生徒の 89.3%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、学校の指導に対する比較的高い評価を示している。
- ・保護者: 86.5%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒とほぼ同様に高い評価を示している。
- ・職員: 職員も 92.0%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒と保護者と同様に高い評価を示している。

総括:

生徒、保護者、職員とも、生徒の成長を実感するととともに、安心して学校生活を送ることができていると感じており、学校における指導に対して良い評価を得ることができている。今後も継続して指導を行うとともにさらなる質の向上を目指していくことが求められる。生徒と保護者の「よく当てはまる」の評価に大きな差が見られており、今後は、教育活動の発信により力を注ぎ、各家庭や地域への理解を図っていくことが望ましい。

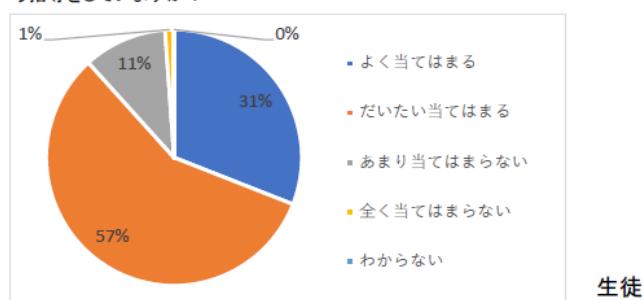
【比較資料：R4 年度の結果】

生徒が安心して登校できるよう指導していますか



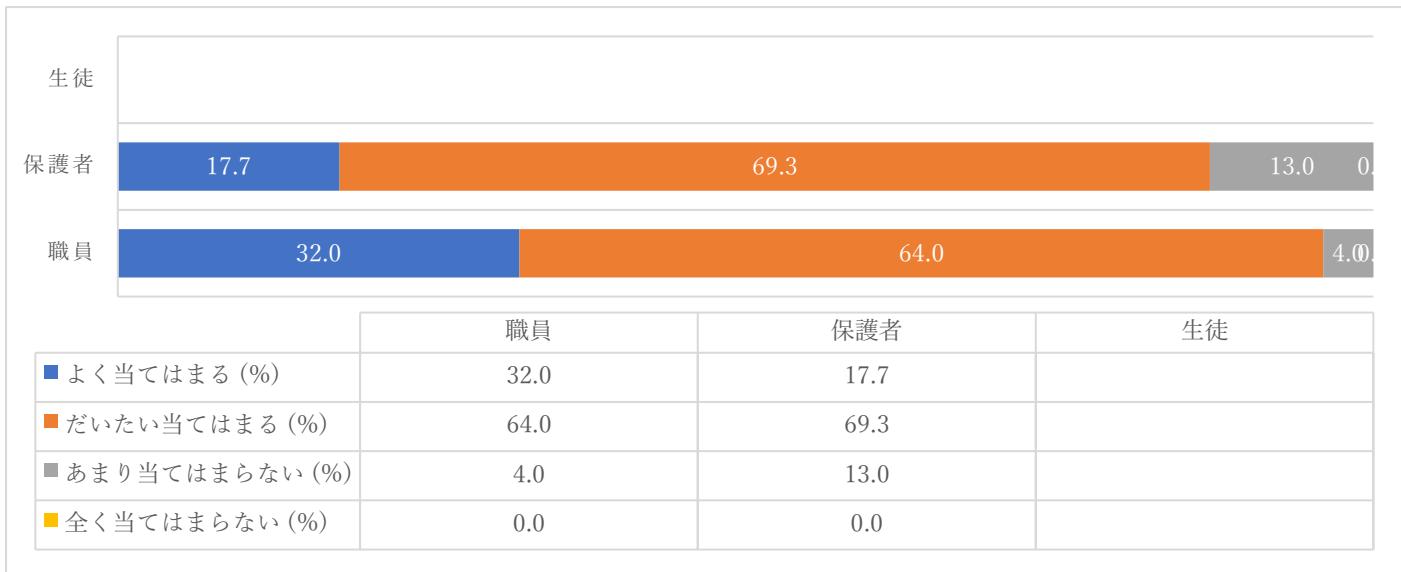
保護者

3 学校は、皆さんのが自分自身の成長を感じることができ、安心して生活できるよう指導していますか？



生徒

4. 質問項目：学校は、教育方針や教育活動の様子をわかりやすく生徒・保護者に説明しているか。



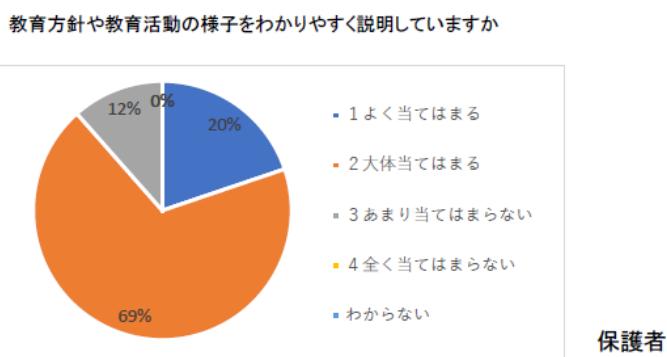
分析:

- 保護者: 保護者の 87.0% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、比較的高い評価を示している。
- 職員: 96.0% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、保護者よりも高い評価を示している。

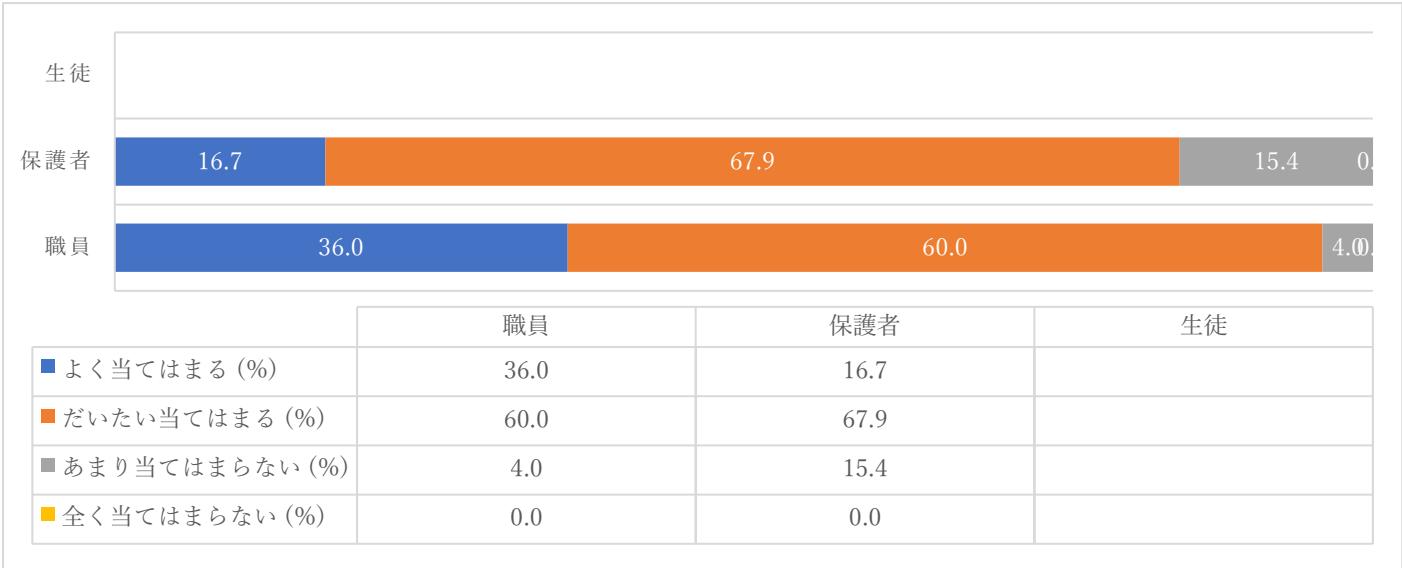
総括:

学校の教育方針と活動の説明に関して、保護者と職員からどちらも高い評価を得ている。今後も教育活動の理解を得るために、各家庭や地域への発信を行うとともに、保護者と職員の「よく当てはまる」の評価に大きな差が見られることから、「わかりやすく」を意識して、多様な方法での発信を考えていく必要がある。

【比較資料：R4 年度の結果】



5. 質問項目：学校は、積極的に保護者や地域の方々と接する機会を設けているか。



分析:

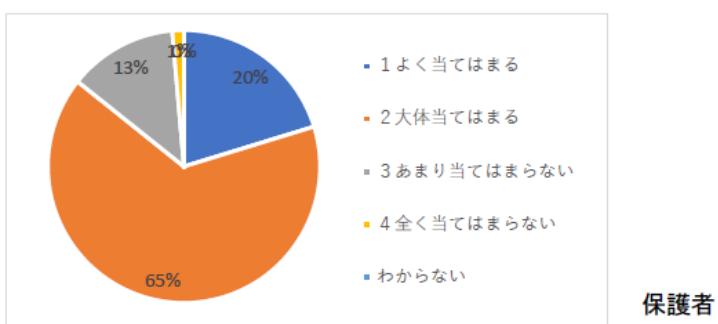
- 保護者: 保護者の 84.6%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、比較的高い評価を示している。
- 職員: 96.0%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、保護者よりも高い評価を示している。

総括:

保護者と職員のどちらも 80 %を超える高い評価を得ており、学校として積極的に保護者や地域の方々と接する機会を設けていると実感してもらっていることの表れと考える。ただ、職員に比べると保護者の評価が若干低いことと「よく当てはまる」の評価に大きな差が見られる。そこで、今後は保護者のニーズ（伝え方～タイミング、内容～何を知りたいか、など）を調べた上で、保護者や地域の方々に足を運んでもらえるような機会を作っていくことが求められる。

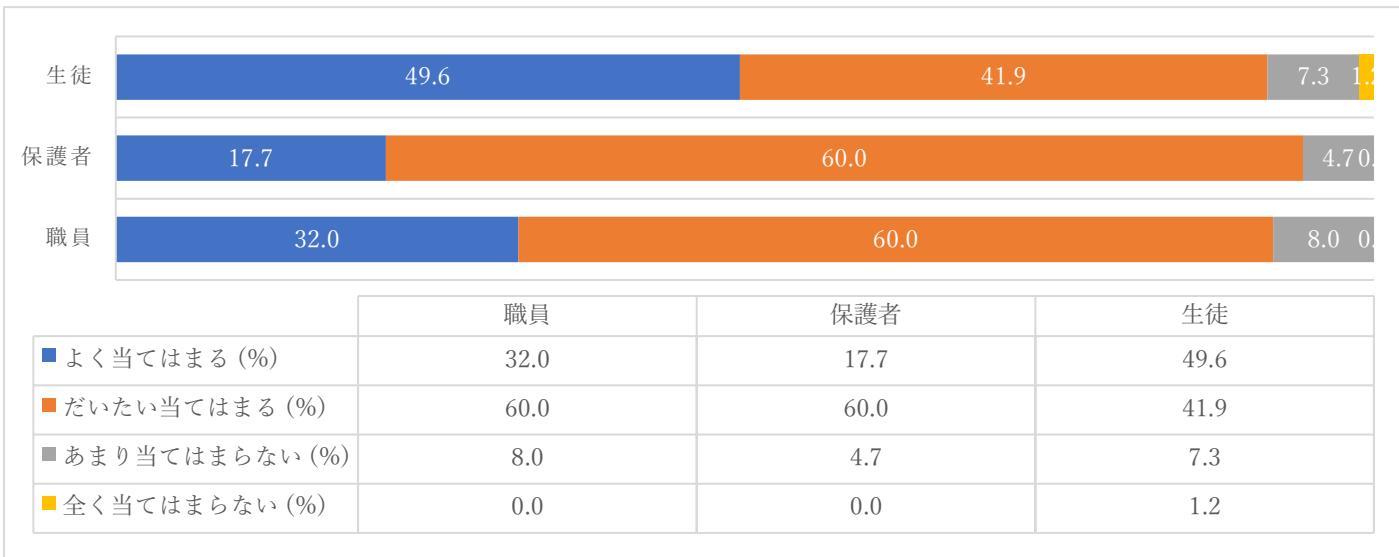
【比較資料：R4 年度の結果】

積極的に保護者や地域の皆様と接する機会を設けていますか



II.先生について

1. 質問項目: 先生は、「話し合い活動」や「協働的学習」の工夫など、子どもたちが主体となる授業作りを心がけているか。



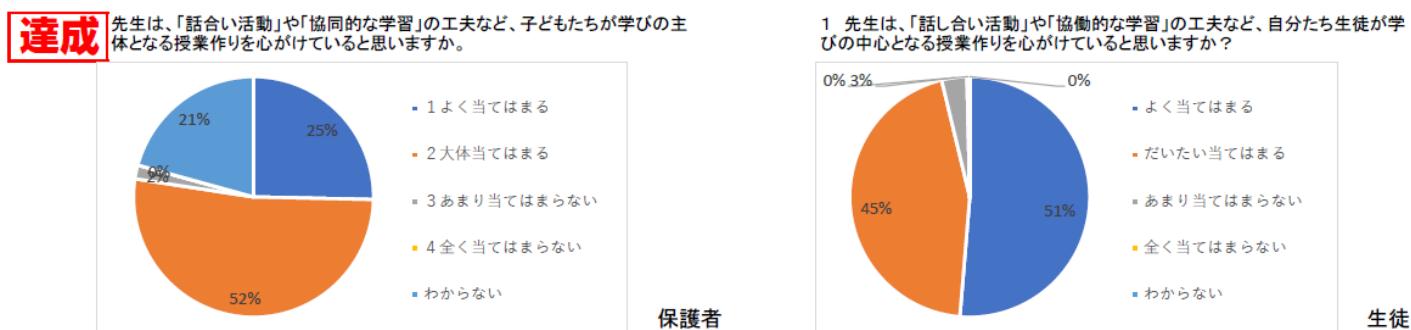
分析:

- ・生徒と職員は、先生が主体的な授業作りを心がけているという評価が高い。
- ・生徒: 半数以上の生徒が「よく当てはまる」と回答し、主体的な学びを経験していると考えている。
- ・保護者: 77.7%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答しており、生徒や職員との共通認識が見られる。
- ・職員: 92.0%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、高い評価を示している。

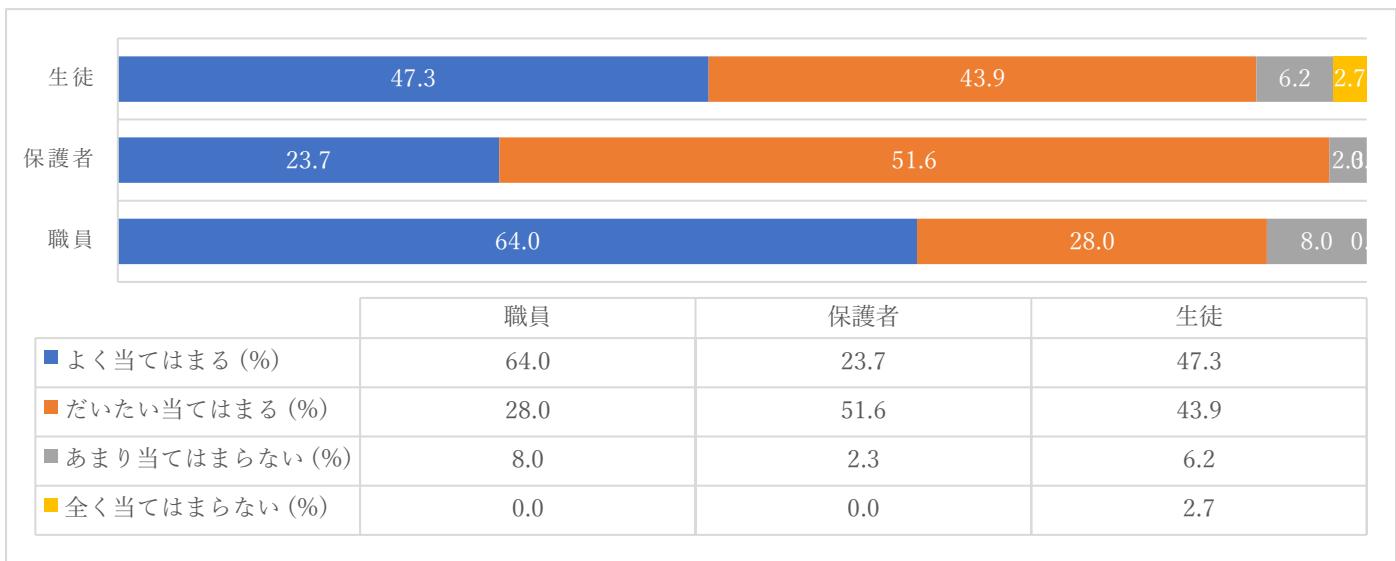
総括:

子どもたちが主体となる授業作りでは、生徒、保護者、職員のすべてにおいて好意的な評価が多く占めている。特に生徒においては「よく当てはまる」が半数を占めており、職員の取組に対して授業を受けている生徒自身が実感として受け取っている。今後も子どもたちが主体となる授業作りを継続するとともに、学力との結びつきを検証し、より良く工夫・改善していくよう努めていきたい。一方で、生徒、職員に比べると保護者は若干低く「よく当てはまる」の評価に大きな差が見られる。そこで、授業の様子を見てもらう機会を増やすとともに、授業での取組が日常にも生きてくるような力を身につけさせるような工夫・改善を図っていくことが求められる。

【比較資料 : R4 年度の結果】



2. 質問項目：先生は、生徒がタブレットを積極的に活用して学習に取り組めるような授業作りを心がけていると思うか。



分析:

- ・生徒と職員は、タブレットの積極的な活用に関する評価が高い。
- ・生徒: 半数以上が「よく当てはまる」と回答し、タブレットを活用した学習に積極的に取り組んでいると感じている。
- ・保護者: 75.3%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答しており、比較的高い評価が得られている。
- ・職員: 高い水準で「よく当てはまる」と回答し、自らの教育活動においてタブレットを有効に活用していると自覚している。

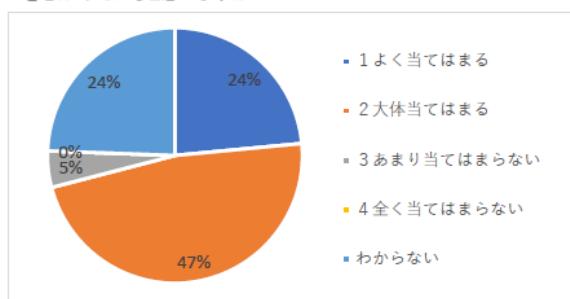
総括:

生徒・保護者・職員全てが、授業の中でタブレットを積極的に活用していると実感しており、ICTを活用した授業がしっかりと行われていると言える。ただ、生徒と職員の「よく当てはまる」の評価に大きな差が見られるため、今後は、生徒自身が授業の中でタブレットをより積極的に活用できるような指導方法等の工夫・改善をしていくことが求められる。

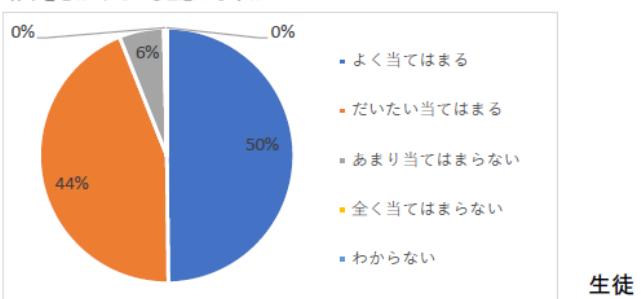
※「見る・送る・受け取る」以外の「調べ学習」「シンキングツールの利用」「プレゼン作成」「各教科のアプリ」などを活用する。

【比較資料：R4 年度の結果】

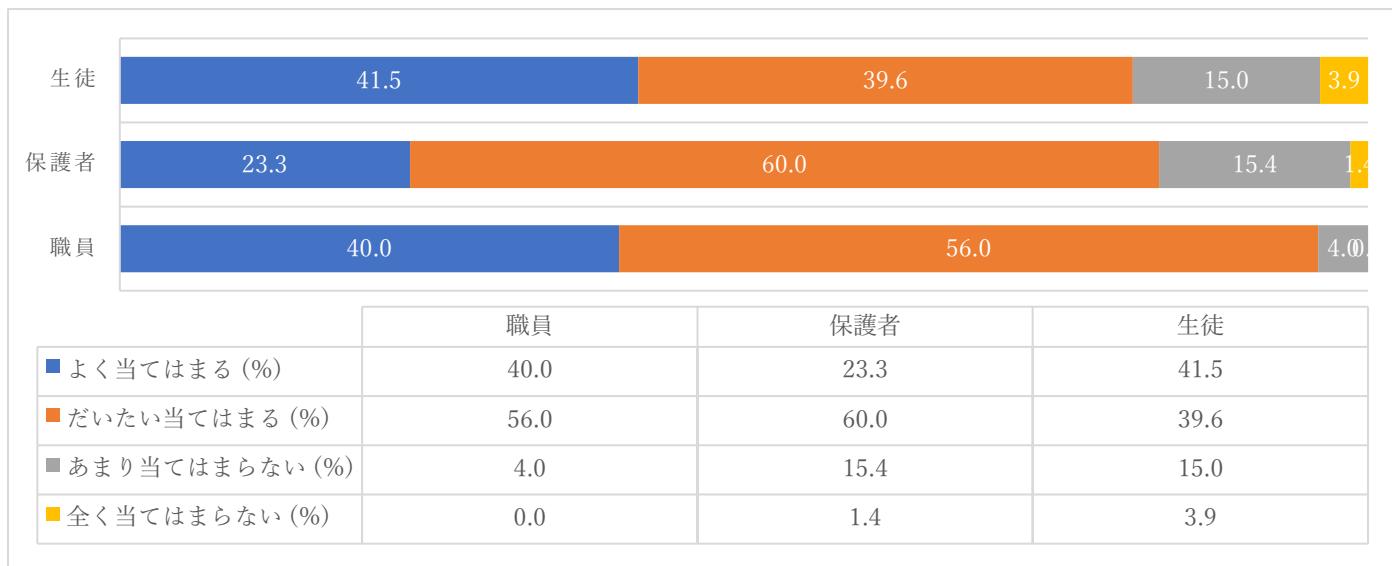
先生は、生徒がタブレットを積極的に活用して学習に取り組めるような授業作りを心がけていると思いますか？



2. 先生は、皆さんがタブレットを積極的に活用して学習に取り組めるような授業作りを心がけていると思いますか？



3. 質問項目：先生は、生徒の悩みなどに適切に応じて指導していると思うか。



分析:

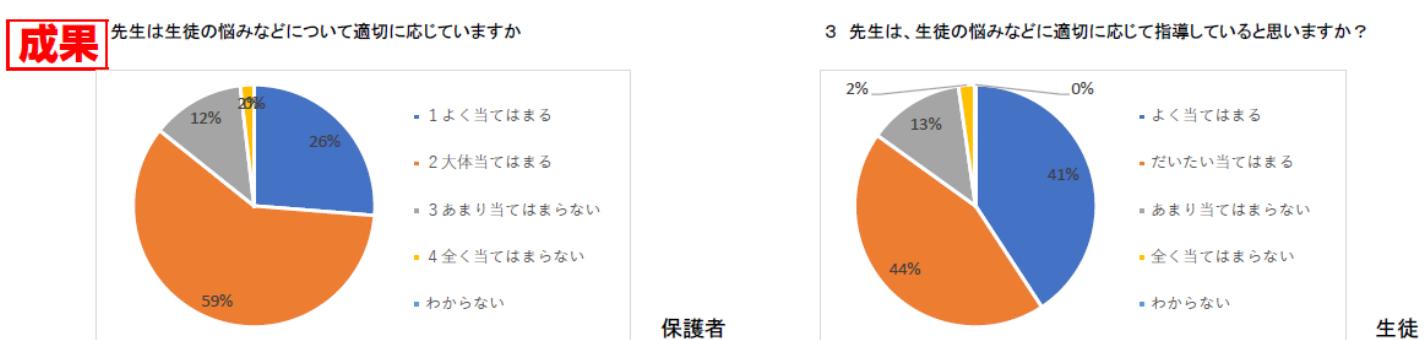
- ・生徒: 81.1%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答しており、生徒の悩みに対する適切な指導が行われていると感じている。
- ・保護者: 83.3%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒の悩みに対する適切な指導が行われていると評価している。
- ・職員: ほぼ全員が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、適切に指導を行うことができていると考えている。

総括:

生徒、保護者、職員のすべてにおいて、80%を超える高い評価を得ている。また、生徒と職員の「よく当てはまる」の評価がほぼ一致しており、日々の生活の中で生徒に寄り添いながら適切な指導を行ってきたことが生徒へしっかりと伝わった結果と捉えることができる。今後も継続した指導を行っていき、一人ひとりの悩み等を解決し、より良い学校生活へつなげていきたい。ただ、職員に比べると生徒と保護者の評価が低くなっている。今後は、よりアンテナを高くするとともに、一人ひとりに声をかけながら、変化を見逃さずに指導を行っていく必要がある。

※ 生徒・保護者ともに17~18%が「あてはまらない」を選択している。全校で30~40人前後の生徒が対応に不足や物足りなさを持っていると見とれる。

【比較資料：R4年度の結果】



4. 質問項目：先生は、生徒理解に努めたり、誤った行動に対しては適切に注意・指導をしていると思うか。



分析:

- 生徒: 86.2%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答しており、先生の生徒理解と適切な指導が行われていると感じている。
- 保護者: 85.6%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、先生の生徒理解と適切な指導が行われていると評価している。
- 職員: 全員が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、しっかりと生徒理解に努めるとともに、個に応じた指導を行うことができたと考えている。

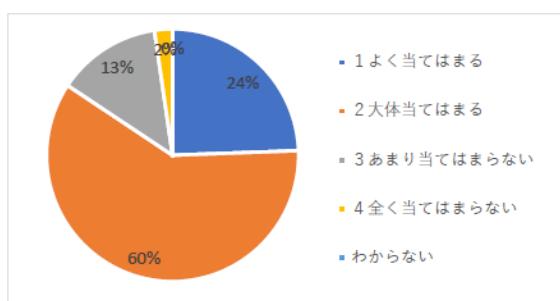
総括:

生徒・保護者・職員のすべてにおいて、80%を超える高い評価を得ている。また、生徒と職員の「よく当てはまる」の評価を比べると生徒の方が高い評価を得ている。これは職員一人ひとりが生徒理解に努めるとともに、様々な要因を踏まえて個に応じた指導を適切に行ってきただことの表れと捉えることができる。今後も継続した指導を行っていくとともに、一部において職員の指導に物足りなさを感じていることをしっかりと受け止め、より一層の努力をしていくことが求められる。

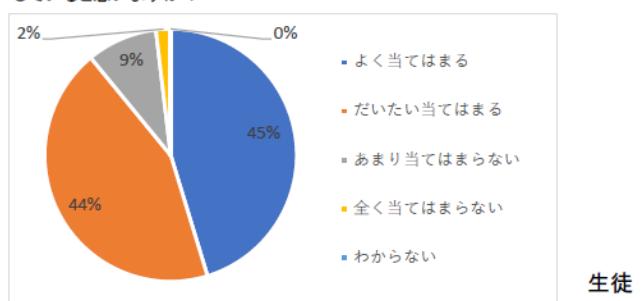
※ 生徒・保護者の 14% (30~35 人ほど) が対応に不足やもの足りなさを持っていると見とれる。

【比較資料：R4 年度の結果】

先生は生徒の誤った行動に対して毅然とした対応をしていますか



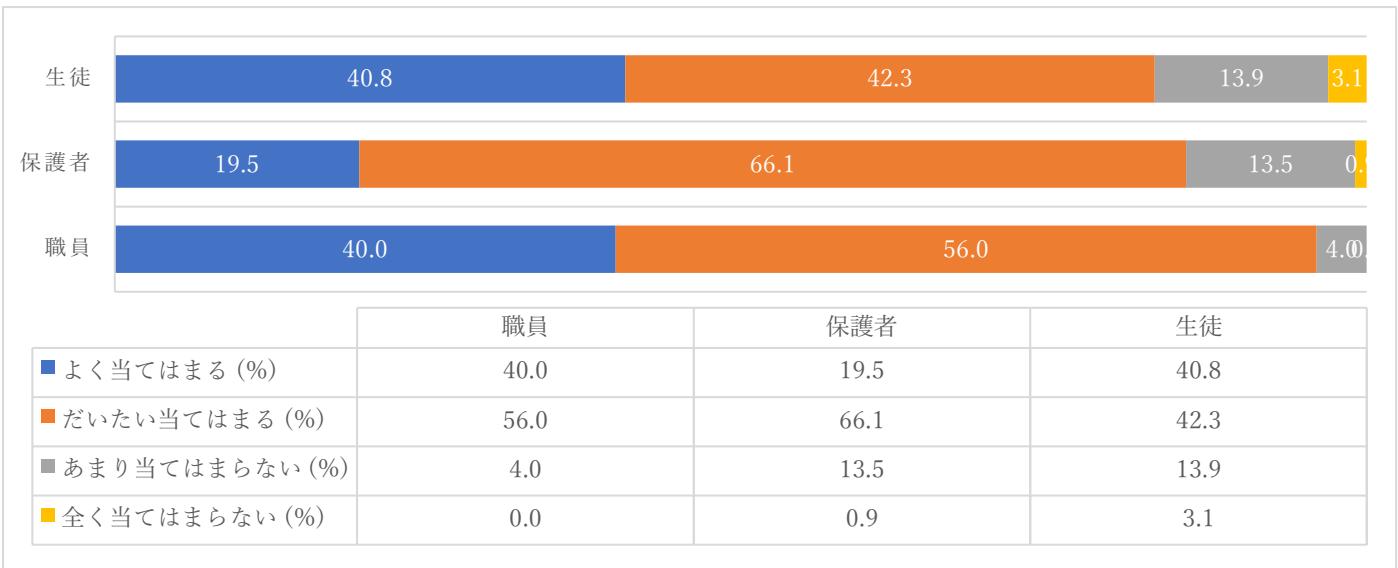
4 先生は、皆さんのこと理解しようと、誤った行動に対しては適切に指導をしていると思いますか？



保護者

生徒

5. 質問項目: 数学科ではチーム・ティーチングを実施していますが、効果があると思うか。



分析:

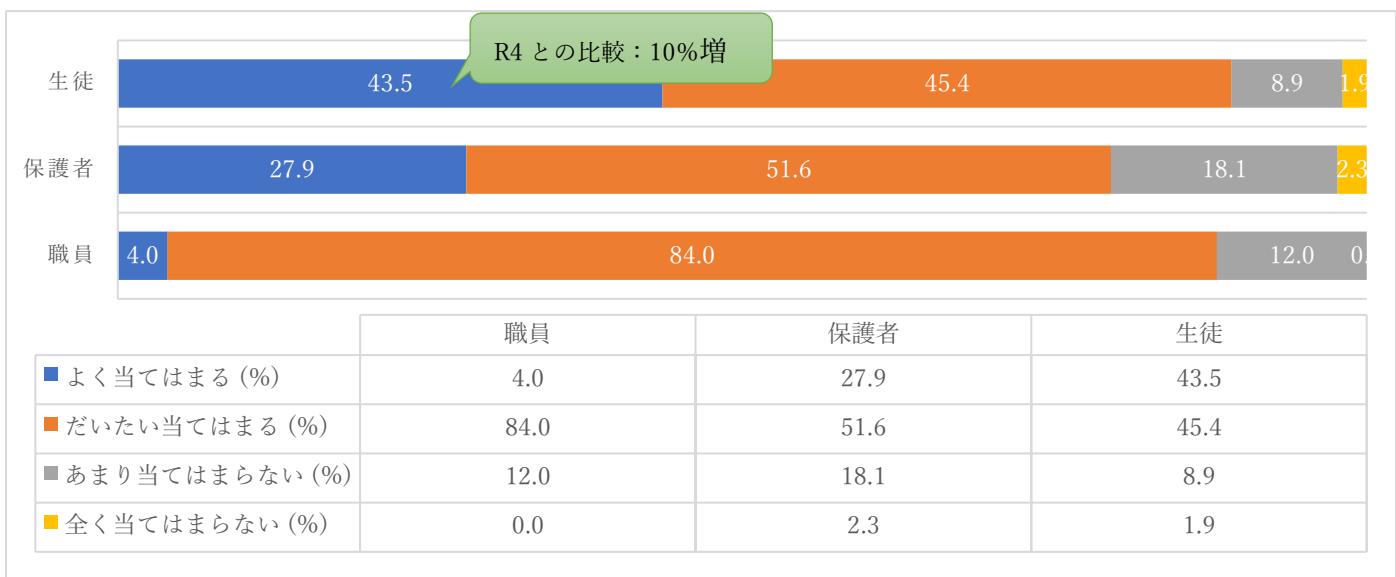
- 生徒: 約 83.1%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答しており、生徒の多くがチーム・ティーチングに効果を感じている。
- 保護者: 約 85.6%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、高めに評価している。
- 職員: 全員が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、特に高い評価を示している。

総括:

チーム・ティーチングに関する評価は職員と比べると、生徒と保護者でやや差が見られるものの、いずれのグループも肯定的な意見が多数を占めている。今後もチーム・ティーチングを継続していくとともに、学力との結びつきをしっかりと検証するとともに生徒や保護者にニーズを調べた上で、その在り方を工夫・改善していくことが求められる。

III. あなた自身について

1. 質問項目：生徒は、学校での活動が楽しいと感じていると思うか。



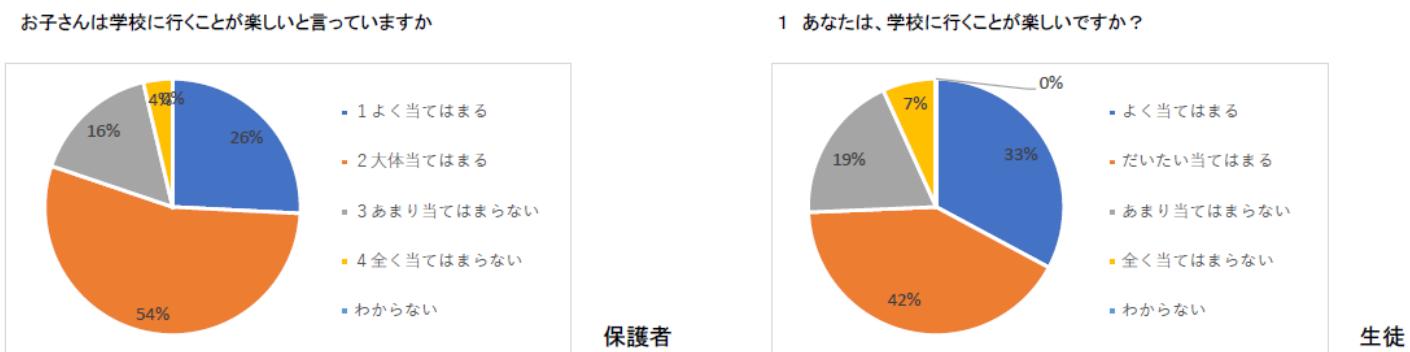
分析：

- ・生徒：約 88.9% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒たちの大多数が学校での活動を楽しんでいると感じている。
- ・保護者：約 79.5% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒よりもやや低いが、それでも多くの保護者が肯定的な意見を持っている。
- ・職員：全員が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、非常に高い評価を示している。

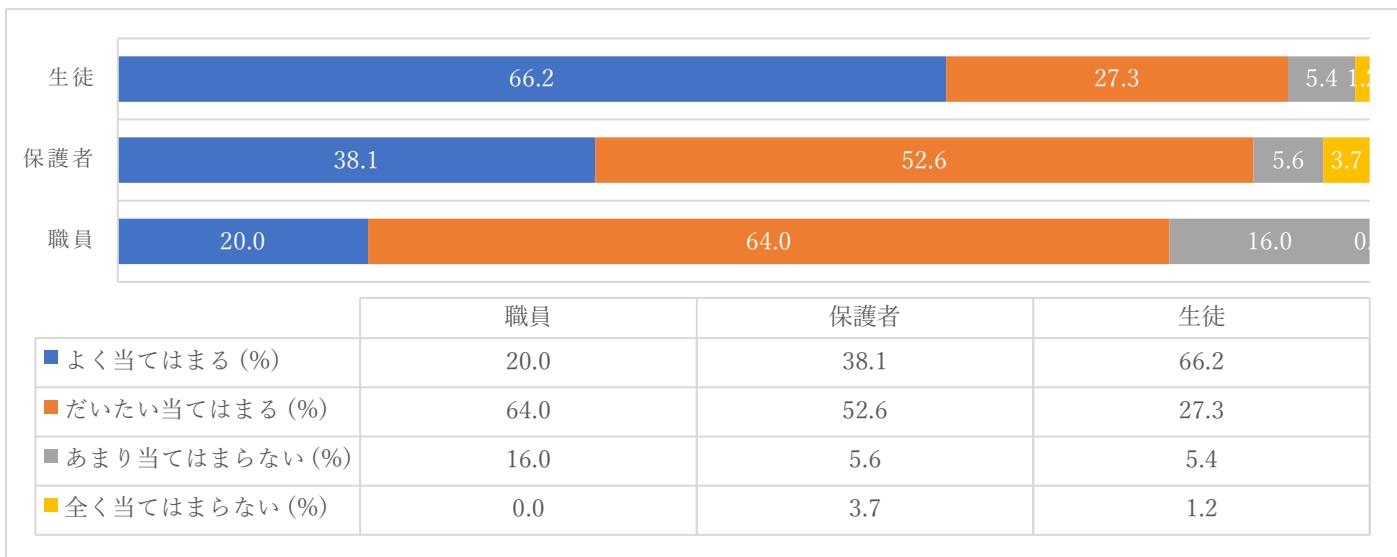
総括：

学校での活動に関する評価は、生徒が最も高く、保護者においても 80% 近くが肯定的に捉えている。この評価は様々な要因によるものではあるが、生徒は学校生活にやりがいを感じ、充実した日常を過ごすことができていると考えられる。今後は、どのような活動に楽しさを感じているかを分析しながら、生徒一人ひとりが楽しいと感じることができる教育活動を展開することが求められる。一方、保護者においては 20% 程度が物足りなさを感じていることにも注目し、子どもたちの様子をしっかりと伝えることで、学校への安心感を高めていく必要がある。

【比較資料：R4 年度の結果】



2. 質問項目：生徒は、いじめや嫌がらせをされず、学校生活を過ごせているか。



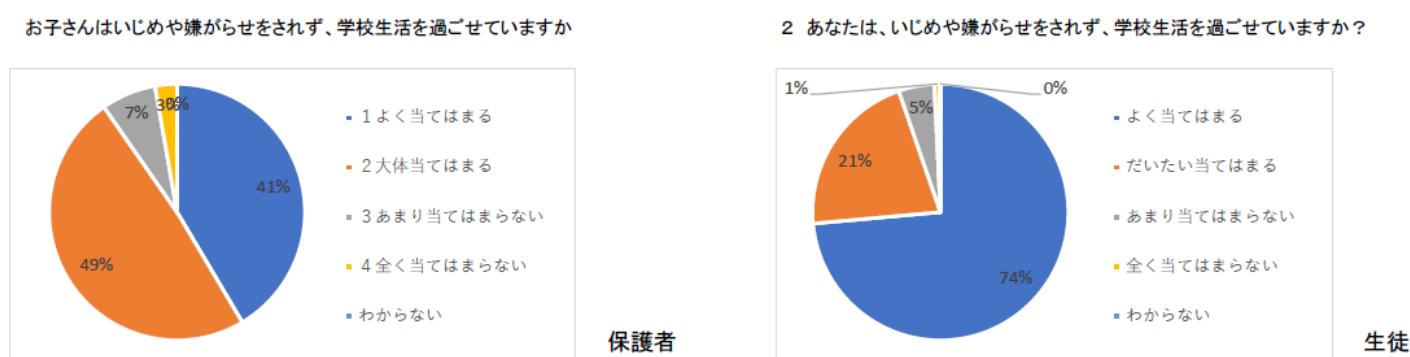
分析:

- ・生徒: 約 93.5% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒の大多数が学校生活を安心して過ごせていると感じている。
- ・保護者: 約 90.7% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒よりもやや低いが、それでも高い割合で肯定的な意見を持っている。
- ・職員: 全員が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、非常に高い評価を示している。

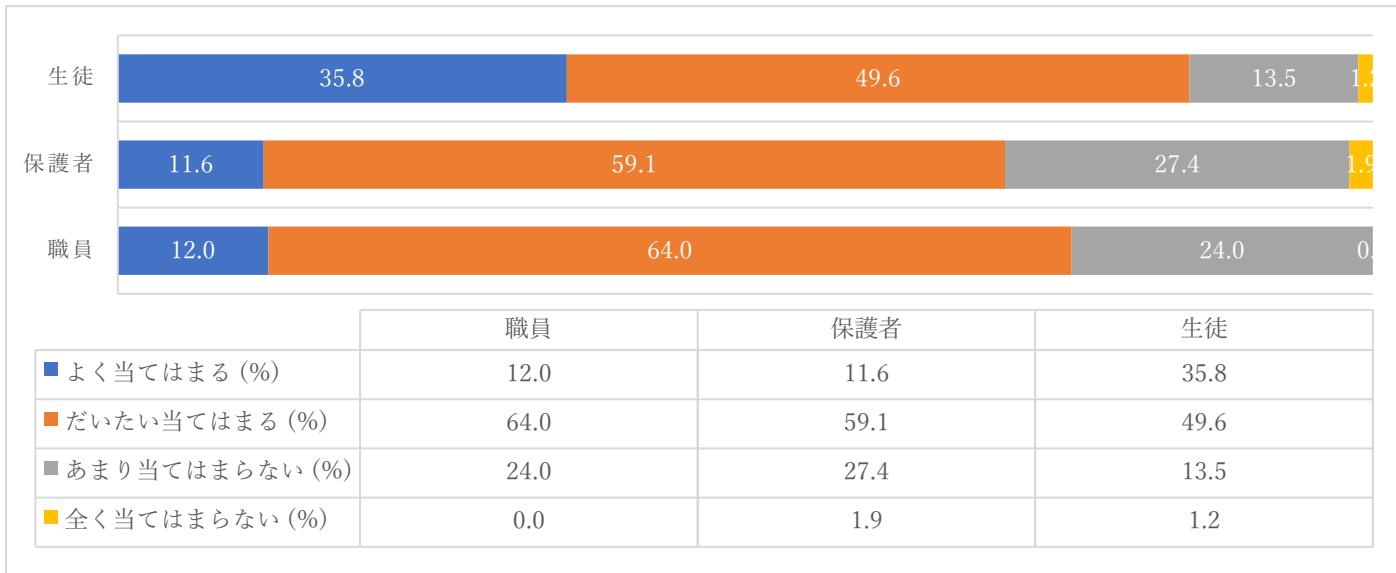
総括:

生徒、保護者において、90 %以上が肯定的な評価を得ている。これは、学校内で取り組んでいるピアサポートやプロジェクトアドベンチャーによって、互いの信頼関係作りに役立ち、学年や学級の良い雰囲気につながっていることが要因だと考えられる。今後もこのような取組を継続することで、いじめや嫌がらせのない学校を目指していくことが求められる。また、職員がアンテナを高くし、ささいなことでも素早く対応するとともに、一貫した指導を行うことで、規範意識を育していくことが必要である。

【比較資料：R4 年度の結果】



3. 質問項目：小学校と中学校の連携により、生徒が安心して生活できるよう、スムーズな接続の工夫がされていたと感じているか。



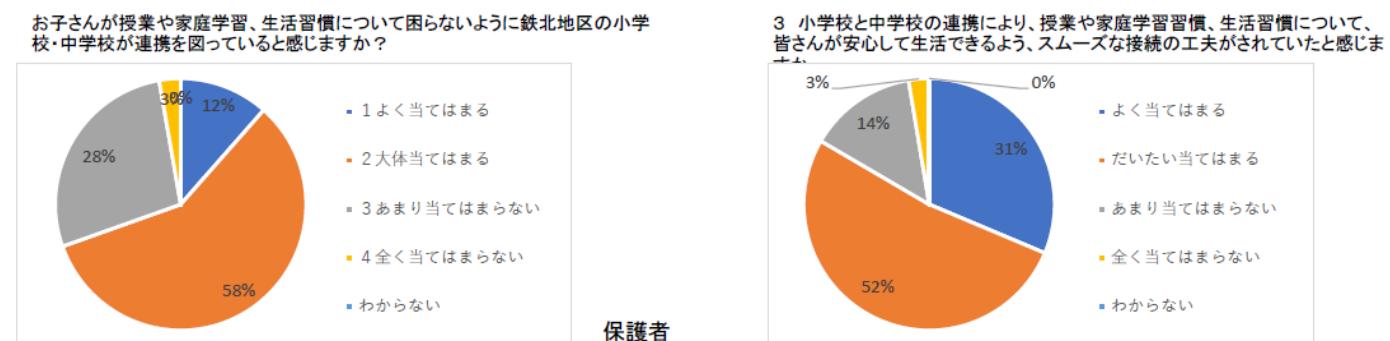
分析:

- ・生徒: 約 85.4% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒の大多数が安心して生活できるような連携があると感じている。しかし、1.2% が「全く当てはまらない」と回答しており、改善の余地がある可能性がある。
- ・保護者: 約 70.7% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒よりもやや低いが、それでも高い割合で肯定的な意見を持っている。ただし、29.3% が肯定的に感じておらず、改善の必要性がある。
- ・職員: 約 76.0% が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒や保護者よりも高い割合で肯定的な意見を示している。ただし、生徒、保護者同様に 20 % 以上が肯定的には感じておらず、改善の必要がある。

総括:

生徒、保護者、職員のいずれもが、小学校と中学校の連携に関して肯定的な意見が多い。これは、次年度の新入生がスムーズに中学校に接続できるよう、事前に中学校に来てもらい、中学校について知つてもらうとともに、小学校同士のつながりを作ることで、中学校への不安を取り除き、安心感や期待感を持たせることができたことが要因だと考えることができる。一方で、保護者の 30 % 近くが不足を感じている。これは生徒に比べて、中学校へ来る機会が少ないためではないかと考える。また、職員も同様に不足を感じているが、中学校へ入学する上で身につけておいてほしい力とのギャップを感じているのではないかと考える。そこで、次年度新入生の保護者にもより多く中学校へ来てもらう機会を設けるとともに、学校間での連携にも力を入れていく必要がある。

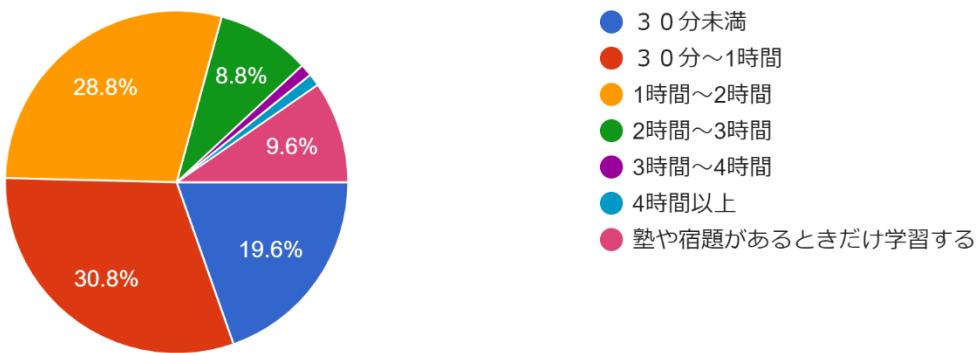
【比較資料：R4 年度の結果】



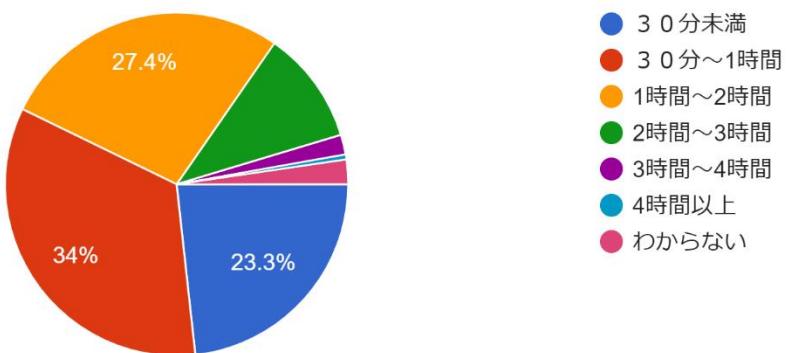
IV. 家庭について

昨年に引き続き、本校の課題

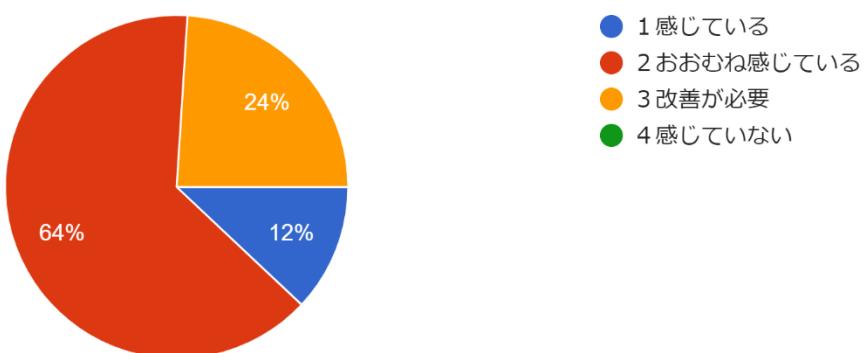
- 1 あなたの平日の家庭学習時間（学習塾などの時間も含めて）をおしえてください。
260 件の回答



- 1 現在、お子さんの平日の家庭学習時間（学習塾などの時間も含めて）をおしえてください。
215 件の回答



1. 生徒たちが授業や家庭での学習習慣、生活習慣について困らないように鉄北地区の小学校・中学校が連携を図っていると感じていますか。



分析:

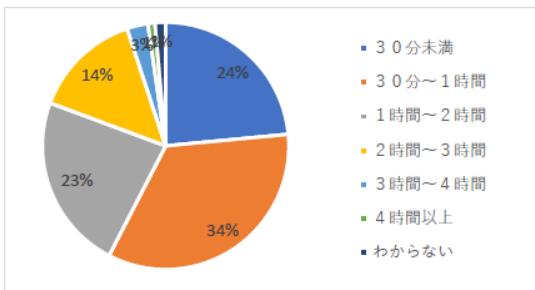
- 生徒: 30分未満が19.6%、1時間未満が30.8%、合計で50.4%と、半数以上の生徒が平日の家庭学習時間が1時間未満という結果、また保護者も概ね同様の把握をしており、本校生徒の家庭での学習時間の少なさが分かる。

総括 :

教職員の小中連携した学習習慣の確立の項目では、「感じている」「概ね感じている」が76%となっており、職員と生徒・保護者の認識のずれが大きいことも分かるため、喫緊の課題と捉えて改善を図りたい。

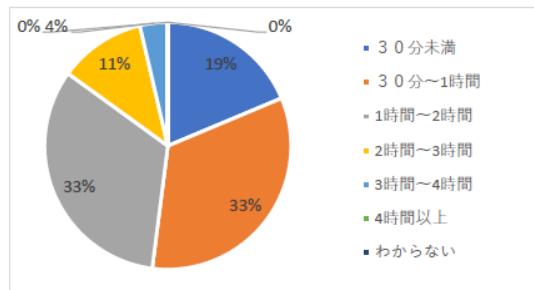
【比較資料：R4 年度の結果】

現在、お子さんの一日の家庭学習時間はどのくらいですか



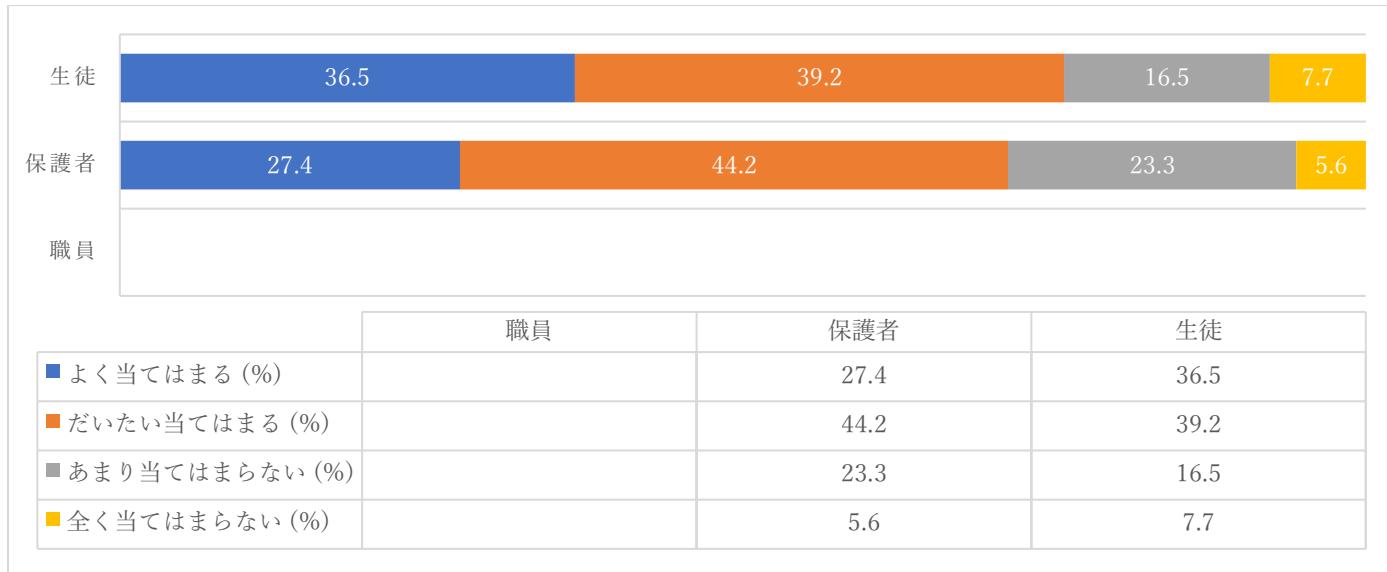
保護者

1. あなたの平日の家庭学習時間(学習塾などの時間も含めて)をおしえてください。



生徒

2. 質問項目：学校の様子を生徒は家庭で保護者の方に、よく話しているか。



分析:

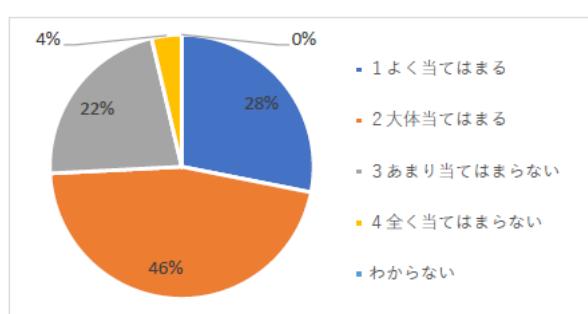
- ・生徒: 約 75.7%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、比較的良好な結果が示されている。
- ・保護者: 約 71.6%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、生徒よりもやや低いが、それでも良好な割合で肯定的な意見を持っている。

総括:

学校の様子についての情報共有において、生徒と保護者の間でやや認識のずれが見られる。生徒がより頻繁にコミュニケーションをとるよう促進するとともに、学校からの情報提供の改善を考える必要がある。
また、20%以上の保護者が「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と回答している。

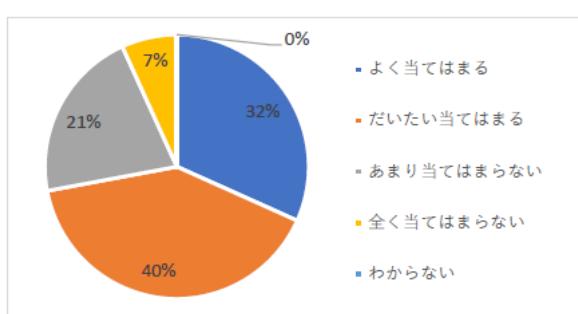
【比較資料：R4 年度の結果】

お子さんは授業や友達のことなどを家庭で話していますか



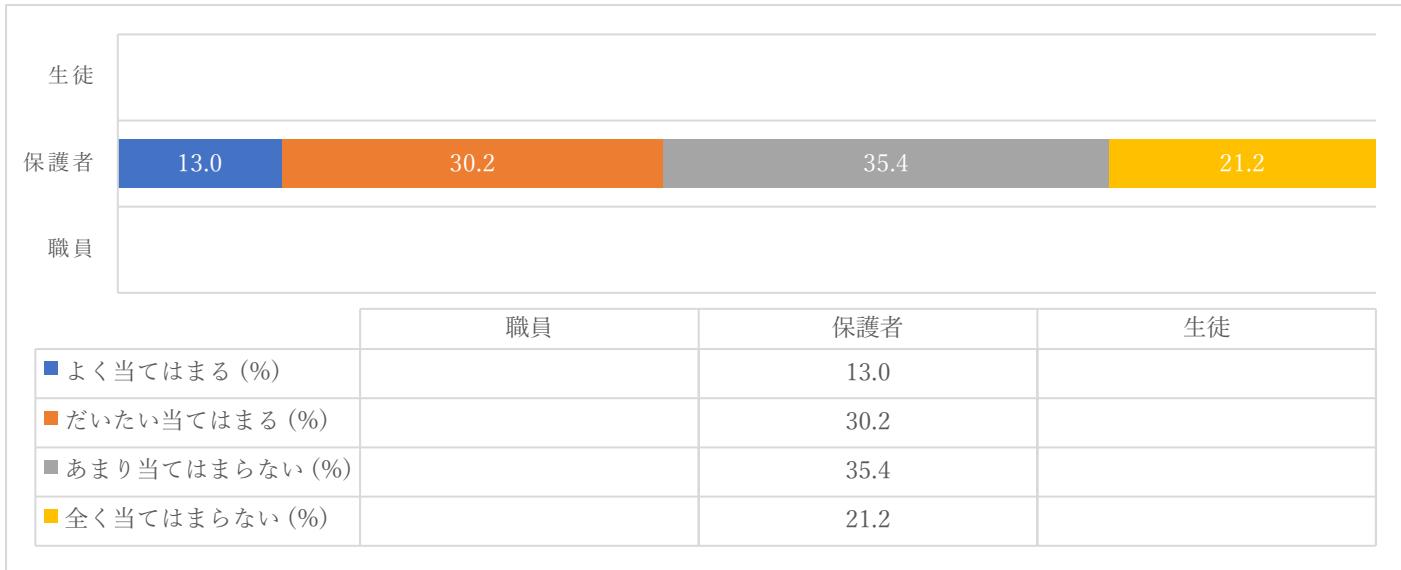
保護者

2 あなたは、学校の様子を家庭で保護者の方に、よく話していますか？



生徒

3. 質問項目：懇談会やPTA活動には参加しているか。



分析:

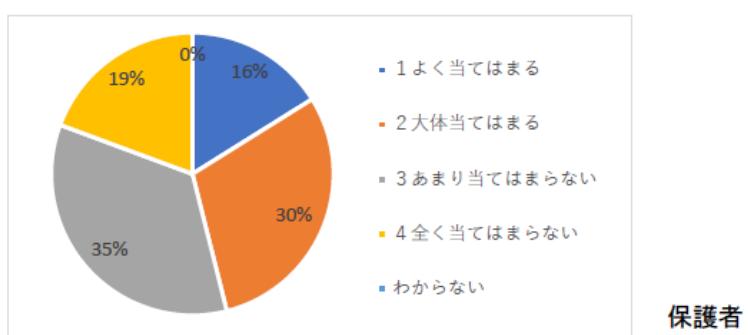
- 保護者: 約43.2%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、保護者の半数が参加できていない状況にある。

総括:

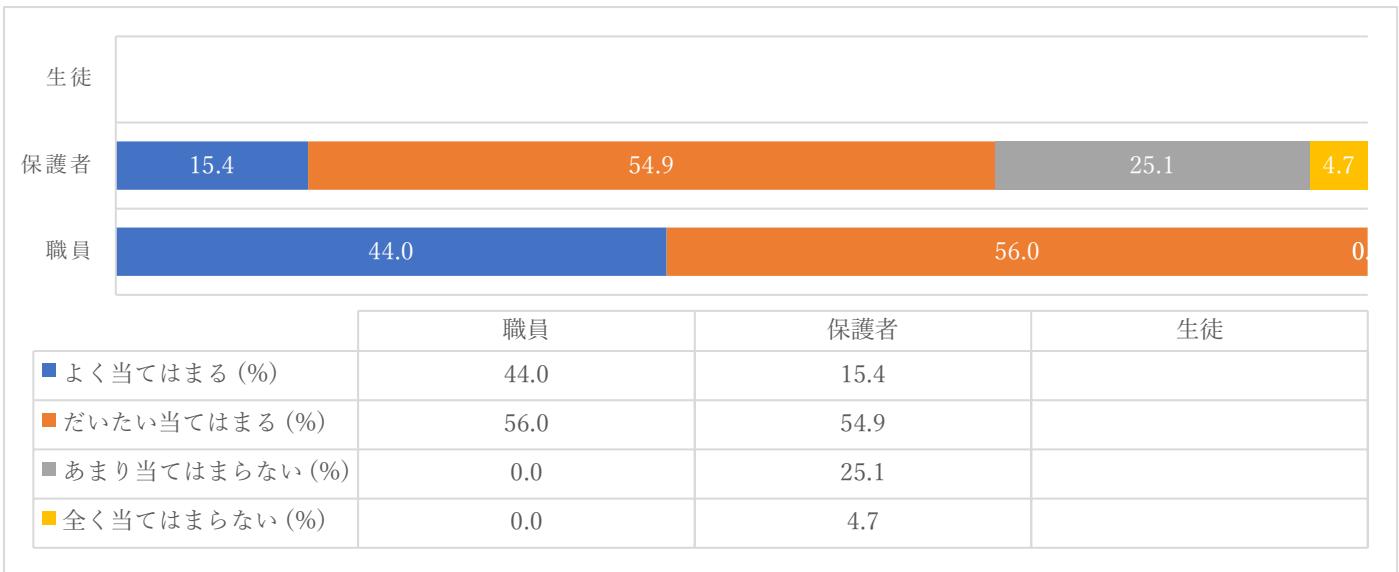
懇親会やPTA活動において、参加したくなるような企画を考案するとともに、予定を立てるためにできるだけ早く案内を配布するよう努めていくことが求められる。そうすることで、保護者や地域の方々に学校に対する関心を持ってもらい、地域一丸となって子どもたちを育てる意識を促していきたい。

【比較資料：R4年度の結果】

3 懇談会やPTA活動には参加されていますか？



4. 質問項目：生徒のことなど、家庭と生徒の情報を共有するよう心がけているか。



分析:

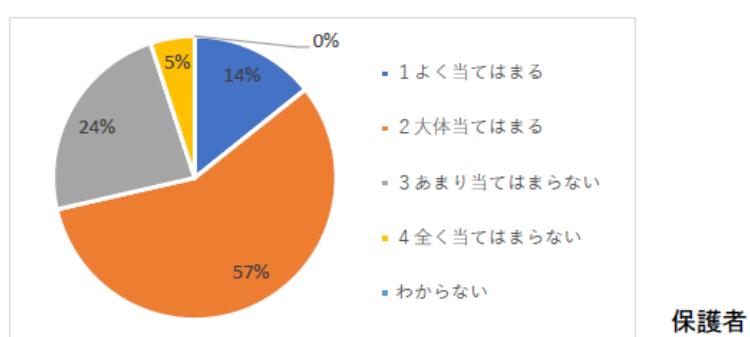
- 保護者: 保護者の約 70.3%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、一定の共有が行われている。ただし、25.1%が「あまり当てはまらない」と回答しており、改善の余地がある。
- 職員: 職員の約 100%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答しており、生徒と家庭との情報共有に関して積極的な姿勢を示している。

総括:

保護者と職員の間で情報共有に関する意識の差が見られる。保護者の 25.1%が「あまり当てはまらない」と回答しているため、今後は些細なことであってもしっかりと伝えることで、保護者との連携を図っていく必要がある。生徒指導に関しては、保護者との連携は指導時点のみに終わるのではなく、その後の経過等も丁寧に伝えていく。また、生徒の良い点についても積極的に伝えていきたい。

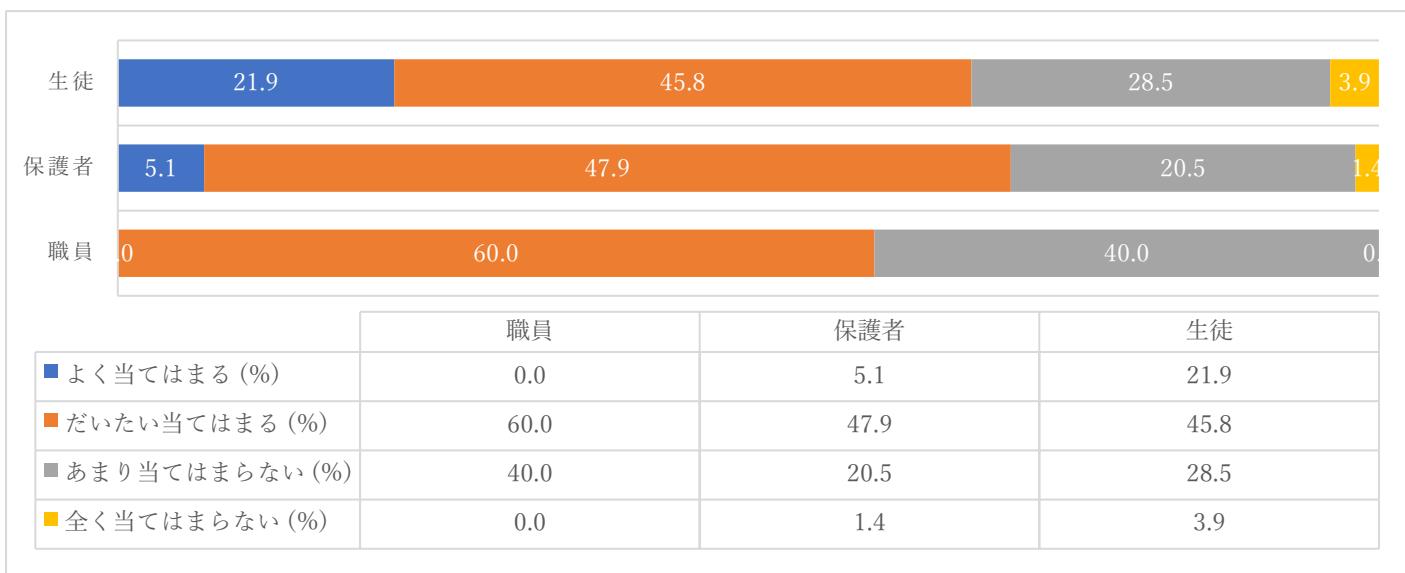
【比較資料：R4 年度の結果】

4 お子さんのことなど、学校とは連絡をとるようになっていますか？



V. 小学校・中学校共通設定項目

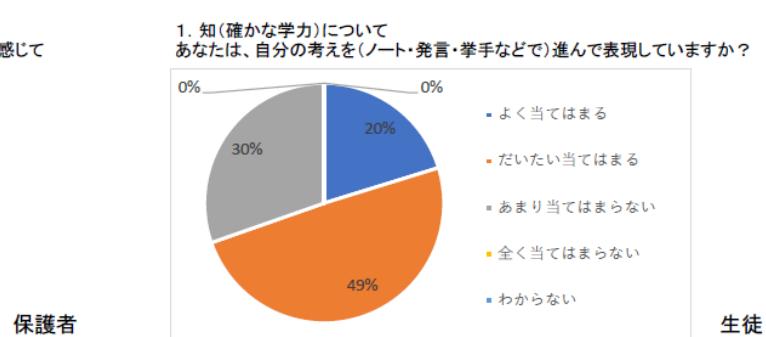
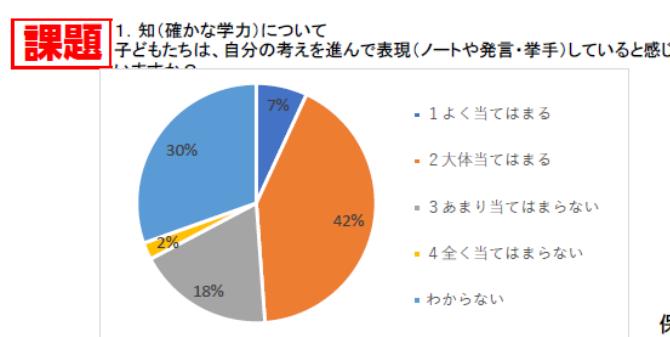
1. 質問項目: 子どもたちは、自分の考えを進んで表現（ノートや発言・挙手）していると感じていますか？



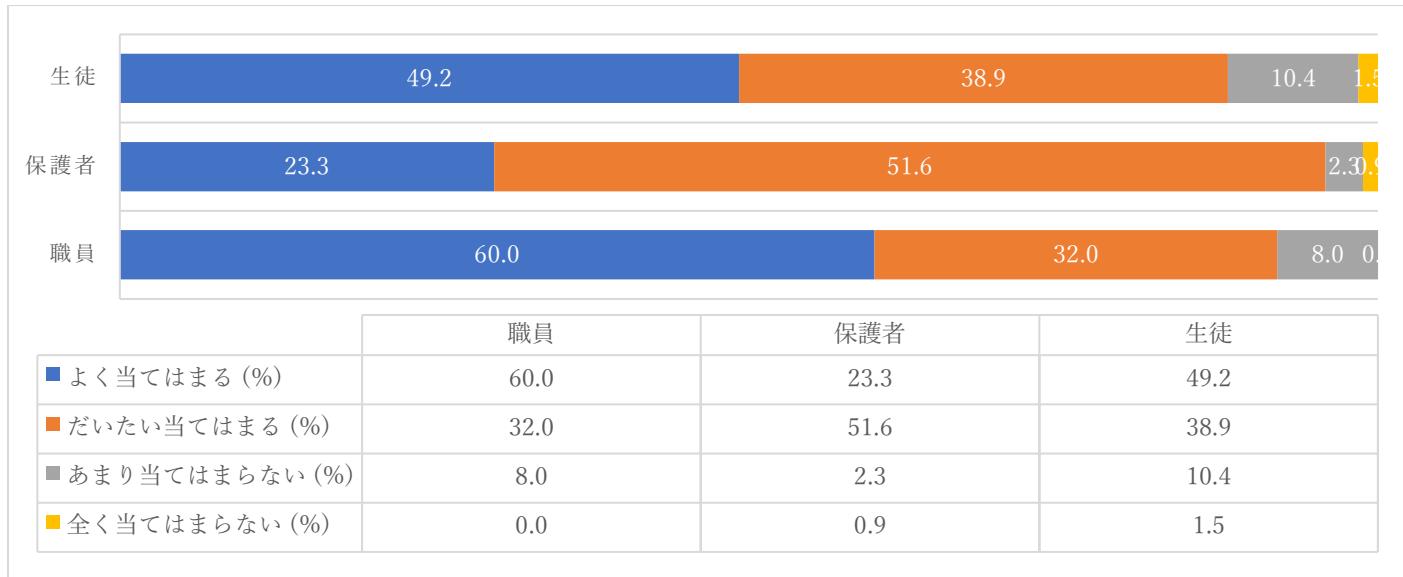
総括:

生徒と保護者、職員すべてで、評価の半数近くが不足を感じている。授業に向かうことはできているが「進んで表現」という点においては今後の課題として取り組んで行かなければならない。そのためには、授業の在り方にも目を向けて、生徒が進んで表現する力を身につけられるような工夫・改善が求められる。
また、堂々と発言できる学年・学級の雰囲気作り、コミュニケーション能力の向上も図っていく。

【比較資料：R4 年度の結果】



2. 質問項目：子どもたちが、授業中に iPad を積極的に使っていると感じていますか？



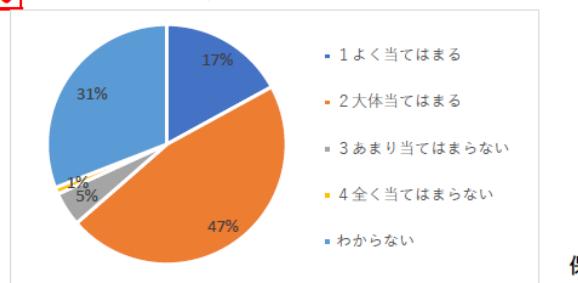
分析:

- ・生徒: 生徒の約 88.1%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、授業中に iPad を積極的に使っていると感じている。
- ・保護者: 保護者の 75.0%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、子どもたちが iPad を積極的に使用していると感じている。
- ・職員: 職員の 92.0%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、子どもたちが iPad を積極的に使用していると感じている。

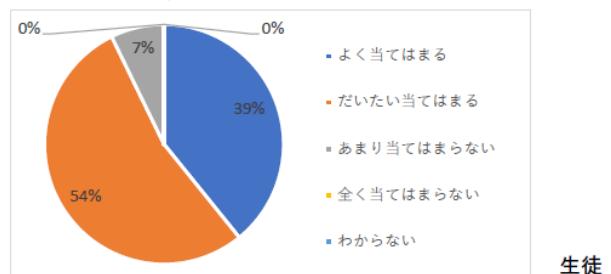
総括:

生徒と職員については全体として高い評価を示している。一方、保護者と比べるとその認識に違いがある。今後は、学校の教育活動において、タブレットがどのように使われているのかを理解してもらうような機会を設けていく必要がある。また、生徒自身がタブレットを学習の深い理解のために効果的な活用ができるよう指導の工夫・改善が求められる。

【比較資料：R4 年度の結果】

達成 2. 知(確かな学力)について
子どもたちが、授業中にipadを積極的に使っていると感じていますか？

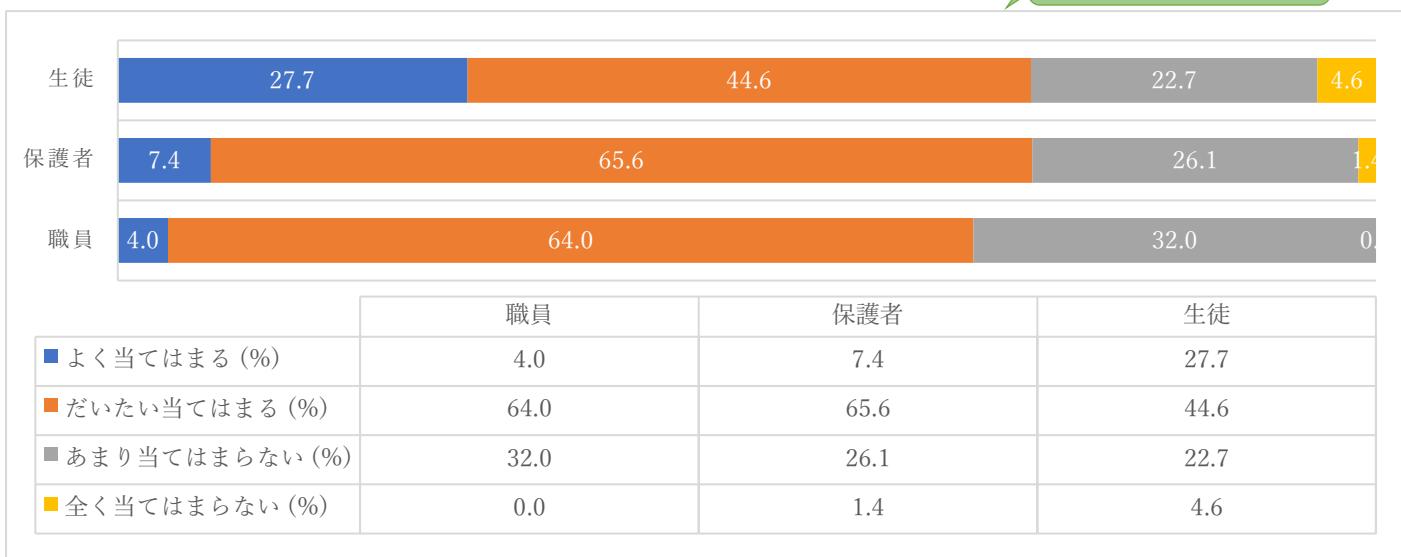
保護者

2. 知(確かな学力)について
あなたは、授業中にipadを積極的に使っていますか？

生徒

3. 質問項目：子どもたちは、自分の良さを理解していると感じていますか？

生徒・職員青が微増



分析:

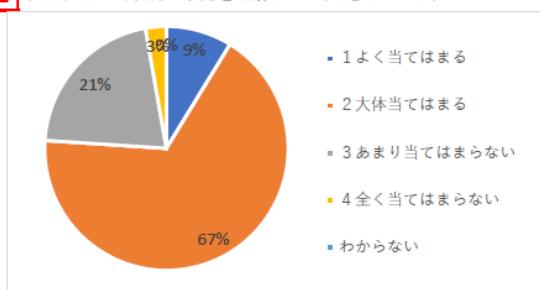
- 生徒: 自分の良さを理解していると感じる生徒は約 72.3%で、そのうち 27.7%が「よく当てはまる」と回答している。一方で、自己理解が低いと感じる生徒も一定数存在している。
- 保護者: 保護者は生徒に対して高い自己理解を感じているよう、72.8%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答している。この結果から、保護者は子どもたちの良さを認識していることが伺える。
- 職員: 職員も保護者と同様に、子どもたちが自分の良さを理解していると評価しており、68.0%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答した。

総括:

生徒、保護者、職員とも 70 %程度が「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答し、多くは自分の良さを理解している。一方で、全体として 30 %程度は不足を感じている。今後は、学校生活において、一人ひとりが自分の良さを理解できるようサポートするとともに、その良さを発揮できる場面を設定していくことが求められる。自分の良さを知ることは、自己肯定感に直結し、前項目にある「進んで表現する」力に繋がると考えるため、大きな課題としてあげられる。

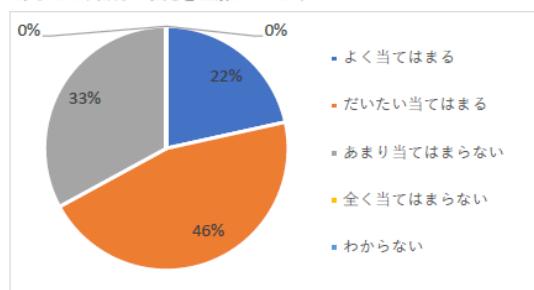
【比較資料：R4 年度の結果】

課題 3. 徳(豊かな心)について 子どもたちは、自分の良さを理解していると感じていますか？



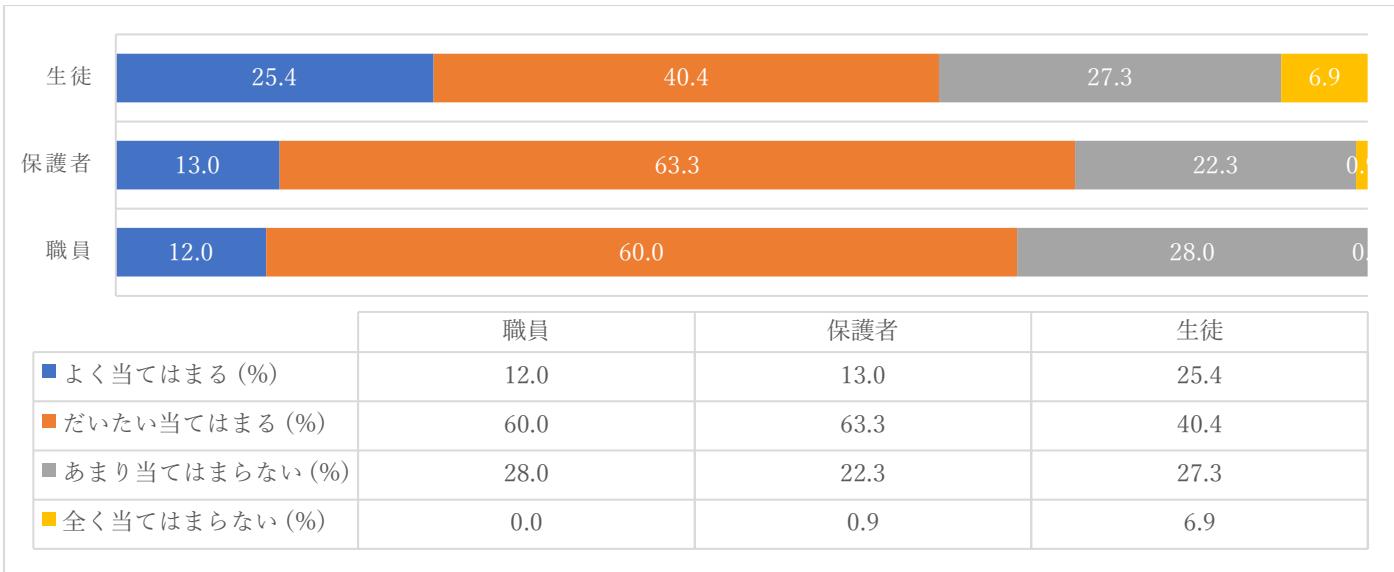
保護者

3. 徳(豊かな心)について あなたは、自分の良さを理解していますか？



生徒

4. 質問項目：学校と地域は協力し合えていると感じていますか？



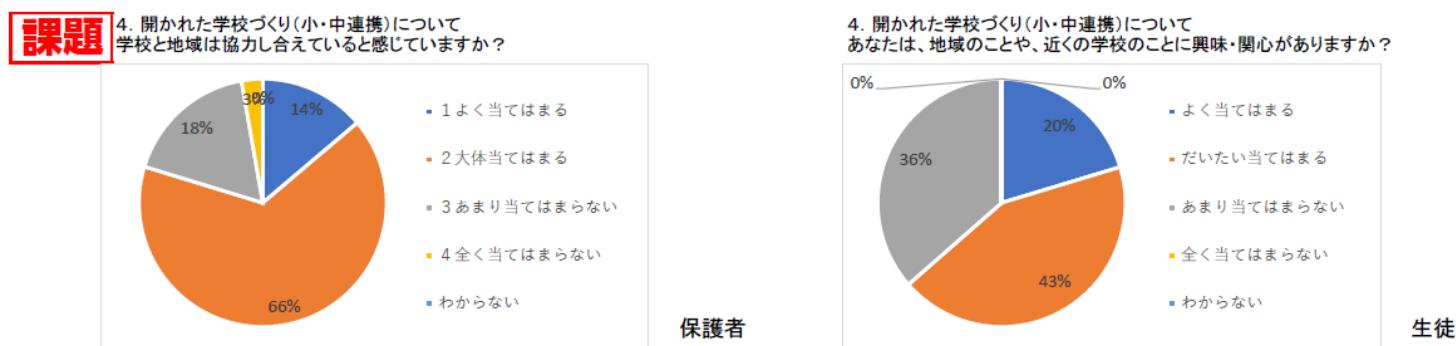
分析:

- ・生徒: 生徒の約 65.8%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、協力感を感じている。ただし、3割程度が「あまり当てはまらない」または「全く当てはまらない」と感じている点に注目が必要である。
- ・保護者: 保護者の約 76.3%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、協力感をより強く感じている。生徒よりも若干高い割合で協力に肯定的な意見が寄せられている。
- ・職員: 職員も約 72.0%が「よく当てはまる」または「だいたい当てはまる」と回答し、協力感を感じている。

総括:

学校と地域の協力に関して、70%程度が肯定的に回答し、ある一定の理解を得ることができている。今後は、どのような点で協力することができるか、何のために協力するのかを保護者や地域の方々としっかりと意見交換し、連携を進めていく必要がある。

【比較資料：R4 年度の結果】



学校評価について

岩見沢緑中

ミーティング

A:できている B:ややできている C:やや不十分 D:不十分

○各評価項目において、上記A～Dで評価をお願いします。当てはまる箇所に○を付けてください。

○お気づきの点がございましたら、自由記述欄に記入をお願いします。

評価項目	A	B	C	D
1 自己評価結果の内容が適切かどうか。	4	1		

自由記述

- ・三者（生徒・保護者・職員）の回答結果に基づき、適切に分析・総括している。
- ・各設問の結果に対する「分析」及び「総括」が端的にわかりやすく記述されている。
- ・生徒の思い、保護者の思い、と先生方の思いは同じ方向を向いているのか。

評価項目	A	B	C	D
2 自己評価の結果を踏まえた今後の方策が適切かどうか。	5			

自由記述

- ・満足度の高い項目であっても、さらに向上させる必要性や取り組みの方向性がのべられている。
- ・上述しているが、確かな数値による「分析」を基に「総括」で適正な方策が記述されている。**今後も、あらゆる観点から実行可能な方策を打ち出してほしい。**

評価項目	A	B	C	D
3 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。	4	2		

自由記述

- ・重点目標と自己評価が相まって、実態や課題、そしてその成果を浮き彫りにすることができる。今年の評価から、改めて重点目標の妥当性を感じている。

評価項目	A	B	C	D
4 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか。	4	1		

自由記述

- ・改善に向けた取り組みが着実に進んでいる。
- ・職員、生徒、家庭・地域の声と学校評価によるデータ分析を基にした運営が年々改善されているのが実感できる。
- ・最善を尽くしてくれていると思う。

評価項目	A	B	C	D
5 評価結果の集計や分析の仕方、情報公開等が適切に行われているかどうか。	2	3		

自由記述

- ・アンケート結果が棒グラフでの表示となりとても分かりやすかった。できれば前年度からの推移がわかるようなグラフ資料となるとさらに良くなると思った。
- ・運営協議会委員には、「自己評価書」が配布され、ミーティングで説明・解説などで適切にされているが、家庭・地域には学校便りが中心なのか。ほかの手段として、メール配信や緑中HP等、タブレット端末機など可能な手段を使った公開やアピールが必要と考える。
- ・学校運営に対し、とても真摯に取り組まれていると感じますし、分析や総括も的確に行われていると思います。
- ・まだ分からぬ部分や見えてこない部分があるかもしれません。

緑中ミーティング交流内容より

II先生についてー5.数学科ではTTを実施していますが、効果があると思うか。に対し

- ・職員と生徒・保護者の否定的意見の%にズレがある。子どもたちにはまだ注文があり、対して先生方はよくやっていると思っているならば、振り返りで生徒の声を聴くなど工夫すると良い。
- ・学校はしっかり学力を身に着ける場所であるべき。習熟度では飽きる生徒がいないよう、時間を有効に活用する。問題のレベルを変えて提示するなど、工夫改善をしてほしい。

V小学校・中学校共通設定項目ー4.学校と地域は協力し合えていると感じていますか。に対し

- ・地域とのつながりをより密接にしたい。夏休みのラジオ体操などの地域行事にも、中学生の姿が見えなくなってきた。地域と学校が連動し、中学生に役割を持たせるなどして活躍の場を提供するなど、みんなの力でつながりを探ることが大切である。
- ・中学校では、今年度青年会議所と協力して地域おこし、町おこしを生徒が考える取り組みを行った。今後はその取り組みとCSとの連動により、地域で実際に取り組んでいることやイベントを共有し、地域で児童生徒が参加してどんなことができるかを実際に検討していくたい。

VIその他交流事項

- ・授業参観や公開授業、行事にも参加して、緑中学校は「機は熟している」と実感している。ここからさらに本気モードでエンジンギアをあげて欲しい。学校祭の3Aの合唱は本当に素晴らしいだった。その合唱が3B、3Cも同様になった時に学校としての力が上がったと言えるのではないか。
- ・低学年層を底上げするには、小中の連携した取り組みが不可欠である。義務教育の9年間で教え合う、学び合う協力できる児童生徒を育成してほしい。

